

受益者の皆様へ

平素は格別のご愛顧を賜り厚く御礼申し上げます。
さて、「テンプレトン世界債券ファンド」は2020年6月22日に決算（限定為替ヘッジコース／為替ヘッジなしコースは第19期、毎月分配型・為替ヘッジなしコースは第113期）を行いました。当ファンドは主として世界各国（新興国を含む）の国債および政府機関債等に実質的な投資を行い、投資信託財産の着実な成長と安定した収益の確保をめざして運用を行います。当期につきましてもそれに沿った運用を行いました。ここに運用状況をご報告申し上げます。

今後とも一層のお引き立てを賜りますようお願い申し上げます。

〈テンプレトン世界債券ファンド 限定為替ヘッジコース〉

第19期末(2020年6月22日)	
基準価額	10,015円
純資産総額	4,222百万円
第19期	
騰落率	△ 4.3%
分配金(税込み)合計	10円

〈テンプレトン世界債券ファンド 為替ヘッジなしコース〉

第19期末(2020年6月22日)	
基準価額	14,006円
純資産総額	3,915百万円
第19期	
騰落率	△ 5.5%
分配金(税込み)合計	10円

〈テンプレトン世界債券ファンド 毎月分配型・為替ヘッジなしコース〉

第113期末(2020年6月22日)	
基準価額	10,738円
純資産総額	206百万円
第108期～第113期	
騰落率	△ 5.4%
分配金(税込み)合計	300円

(注) 騰落率は分配金(税込み)を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、小数点以下第2位を四捨五入して表示しております。

(注) 純資産総額の単位未満は四捨五入して表示しております。

テンプレトン世界債券ファンド

限定為替ヘッジコース

為替ヘッジなしコース

毎月分配型・為替ヘッジなしコース

(愛称:地球号)

追加型投信／内外／債券

交付運用報告書

限定為替ヘッジコース／為替ヘッジなしコース
第19期(決算日2020年6月22日)

作成対象期間：2019年12月21日～2020年6月22日

毎月分配型・為替ヘッジなしコース

第108期(決算日2020年1月20日)

第109期(決算日2020年2月20日)

第110期(決算日2020年3月23日)

第111期(決算日2020年4月20日)

第112期(決算日2020年5月20日)

第113期(決算日2020年6月22日)

作成対象期間：2019年12月21日～2020年6月22日



FRANKLIN
TEMPLETON

フランクリン・テンプレトン・インベストメンツ株式会社

東京都港区六本木1丁目9番10号

＜お問い合わせ先＞

お客様ダイヤル

電話番号：03-6230-5699

受付時間：9:00～17:00

(土・日・祝日および12月31日・1月2日・1月3日を除きます。)

ホームページ：https://www.franklintempleton.co.jp/

お客様の口座内容などに関するお問い合わせは、お申込みされた販売会社までお願い申し上げます。

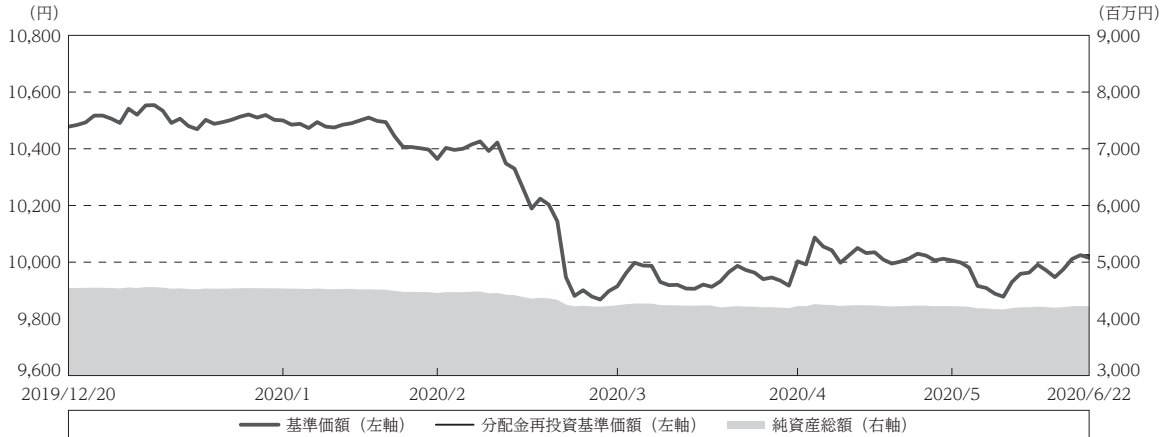
- 当ファンドは、投資信託約款において運用報告書(全体版)に記載すべき事項を、電磁的方法によりご提供する旨を定めております。上記「お問い合わせ先」ホームページの「ファンド一覧」から当ファンドのファンド名称を選択することにより、当ファンドの詳細ページにおいて「資料・レポート」の中から運用報告書(全体版)を閲覧およびダウンロードすることができます。
- 運用報告書(全体版)は受益者のご請求により交付されます。交付を請求される方は、販売会社までお問い合わせください。

〈テンプレトン世界債券ファンド 限定為替ヘッジコース〉

運用経過

期中の基準価額等の推移

(2019年12月21日～2020年6月22日)



期首：10,478円

期末：10,015円 (既払分配金(税込み):10円)

騰落率：△ 4.3% (分配金再投資ベース)

- (注) 分配金再投資基準価額は、分配金(税込み)を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものではありません。
- (注) 分配金を再投資するかどうかについてはお客様がご利用のコースにより異なります。また、ファンドの購入価額により課税条件も異なります。したがって、お客様の損益の状況を示すものではありません。
- (注) 分配金再投資基準価額は、期首(2019年12月20日)の値が基準価額と同一となるように指数化しております。
- (注) 上記騰落率は、小数点以下第2位を四捨五入して表示しております。
- (注) 当ファンドが投資を行う投資対象ファンドは、特定のベンチマークを上回ることを目指して運用するものではありません。したがって、当ファンドもベンチマークを設定しておりません。

○基準価額の主な変動要因

主な投資対象ファンドである「フランクリン・テンプレトン・インベストメント・ファンズーテンプレトン・グローバル・ボンド・ファンド」(以下、テンプレトン・グローバル・ボンド・ファンドといいます。)の円建て外国投資証券「Class I (Mdis) JPY-H1」(以下、JPY限定為替ヘッジ・クラスといいます。)の分配金再投資基準価額が値下がりしたことから、当ファンドの分配金再投資基準価額は下落しました。詳しくは後掲の「**■投資環境**」をご参照ください。

なお、投資対象ファンドの主な変動要因は以下の通りです。

- ・投資を行っている新興国を含む世界各国の国債、政府機関債等からのインカムゲイン
- ・投資を行っている新興国を含む世界各国の国債、政府機関債等の価格変動
- ・投資を行っている先進国通貨および新興国通貨の対米ドルの価格変動
- ・米ドル売り円買いの為替予約取引等による為替ヘッジコスト

1 万口当たりの費用明細

(2019年12月21日～2020年6月22日)

項 目	当 期		項 目 の 概 要
	金 額	比 率	
(a) 信 託 報 酬	55	0.542	(a) 信託報酬 = [期中の平均基準価額] × 信託報酬率
(投 信 会 社)	(11)	(0.111)	ファンドの運用、受託会社への指図、基準価額の算出、開示資料作成等の対価
(販 売 会 社)	(43)	(0.417)	購入後の情報提供、運用報告書等各種書類の送付、口座内でのファンドの管理および事務手続き等の対価
(受 託 会 社)	(1)	(0.014)	ファンドの運用財産の保管・管理、委託会社からの運用指図の実行等の対価
(b) そ の 他 費 用	0	0.004	(b) その他費用 = $\frac{\text{[期中のその他費用]}}{\text{[期中の平均受益権口数]}}$
(監 査 費 用)	(0)	(0.004)	その他費用
(そ の 他)	(0)	(0.000)	・ 監査費用は、監査法人等に支払うファンドの監査に係る費用 ・ その他は、金銭信託預入に係る手数料等
合 計	55	0.546	
期中の平均基準価額は、10,213円です。			

(注) 期中の費用（消費税等のかかるものは消費税等を含む）は追加、解約によって受益権口数に変動があるため、簡便法により算出した結果です。

(注) 各金額は各項目ごとに円未満は四捨五入してあります。

(注) 各項目の費用は、このファンドが組入れている投資信託証券が支払った費用を含みません。

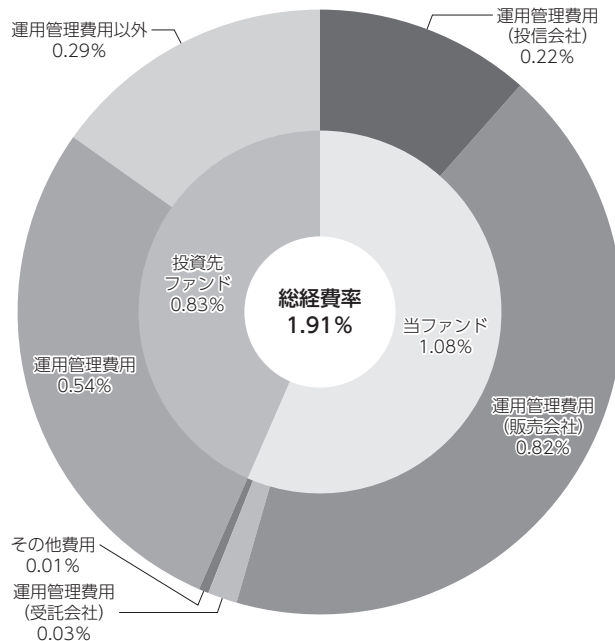
(注) 当該投資信託証券の直近の計算期末時点における「1万口当たりの費用明細」等が取得できるものについては「組入上位ファンドの概要」に表示しております。

(注) 各比率は1万口当たりのそれぞれの費用金額を期中の平均基準価額で除して100を乗じたもので、項目ごとに小数第3位未満は四捨五入してあります。

(参考情報)

○総経費率

期中の運用・管理にかかった費用の総額（原則として、募集手数料、売買委託手数料および有価証券取引税を除く。）を期中の平均受益権口数に期中の平均基準価額（1口当たり）を乗じた数で除した総経費率（年率）は1.91%です。



(単位:%)

総経費率(①+②+③)	1.91
①当ファンドの費用の比率	1.08
②投資先ファンドの運用管理費用の比率	0.54
③投資先ファンドの運用管理費用以外の比率	0.29

(注) 当ファンドの費用は1万口当たりの費用明細において用いた簡便法により算出したものです。

(注) 各費用は、原則として、募集手数料、売買委託手数料および有価証券取引税を含みません。

(注) 各比率は、年率換算した値です。

(注) 投資先ファンドとは、当ファンドが組入れている投資信託証券（マザーファンドを除く。）です。

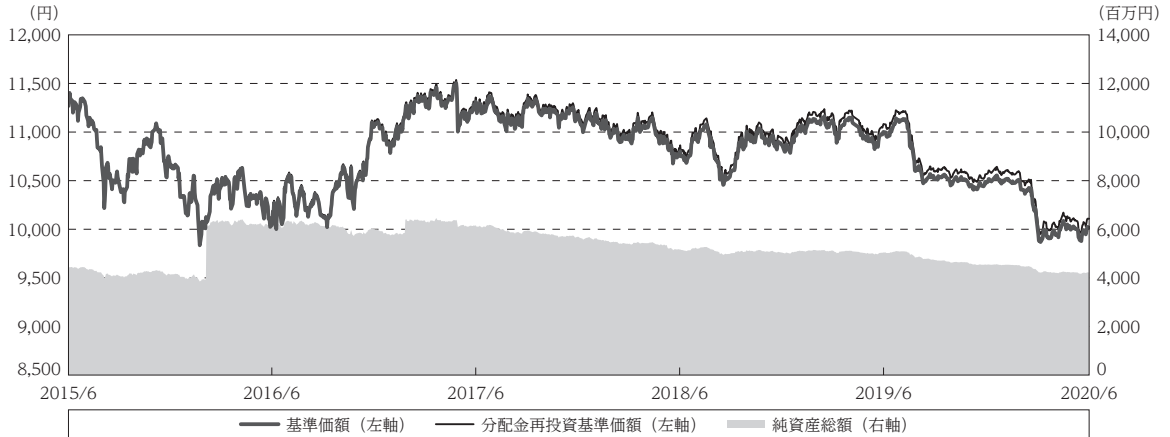
(注) 当ファンドの費用は、マザーファンドが支払った費用を含み、投資先ファンドが支払った費用を含みません。

(注) 当ファンドの費用と投資先ファンドの費用は、計上された期間が異なる場合があります。

(注) 上記の前提条件で算出したものです。このため、これらの値はあくまでも参考であり、実際に発生した費用の比率とは異なります。

最近5年間の基準価額等の推移

(2015年6月22日～2020年6月22日)



- (注) 分配金再投資基準価額は、分配金(税込み)を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。
- (注) 分配金を再投資するかどうかについてはお客様がご利用のコースにより異なります。また、ファンドの購入価額により課税条件も異なります。したがって、お客様の損益の状況を示すものではありません。
- (注) 分配金再投資基準価額は、2015年6月22日の値が基準価額と同一となるように指数化しております。

	2015年6月22日 決算日	2016年6月20日 決算日	2017年6月20日 決算日	2018年6月20日 決算日	2019年6月20日 決算日	2020年6月22日 決算日
基準価額 (円)	11,268	10,043	11,314	10,767	11,002	10,015
期間分配金合計(税込み) (円)	—	20	20	20	20	20
分配金再投資基準価額騰落率 (%)	—	△ 10.7	12.9	△ 4.7	2.4	△ 8.8
純資産総額 (百万円)	4,433	6,055	6,168	5,156	5,043	4,222

- (注) 上記騰落率は、小数点以下第2位を四捨五入して表示しております。
- (注) 純資産総額の単位未満は切捨てて表示しております。
- (注) 騰落率は1年前の決算応当日との比較です。
- (注) 当ファンドは、「フランクリン・テンプレトン・インベストメント・ファンズ-テンプレトン・グローバル・ボンド・ファンド Class I (Mdis) JPY-HI」および「日本短期債券ファンド (適格機関投資家限定)」に投資するファンド・オブ・ファンズです。ファンドの収益率を測る適切なインデックスが存在しないため、ベンチマークおよび参考指数はありません。

投資環境

(2019年12月21日～2020年6月22日)

(債券市場)

当期、新型コロナウイルスの世界的な感染拡大に伴う世界経済の悪化懸念を受け、米国10年国債利回りは低下（債券価格は上昇）しました。また、欧州や新興国の長期債の利回りも全般に低下しました。

米国の債券市場では、期首から2020年1月中旬にかけては、米中貿易交渉の進展を巡る観測などを背景にレンジ内での動きとなっていました。その後、新型コロナウイルスの感染が世界へと広がるにつれ、世界経済の成長減速が懸念され、投資家がリスク回避姿勢を強めたことなどを背景に安全資産とみられる債券への資金移動が急速に進みました。米国10年国債利回りは3月初に史上初となる1%割れとなった一方、3月3日に米連邦準備理事会（FRB）はリーマンショック時以来となる臨時の米連邦公開市場委員会（FOMC）を開催し、政策金利であるフェデラルファンド（FF）金利の誘導目標レンジを0.5%引き下げました。さらに同月中旬にも緊急のFOMCを開催し、1.0%の大幅な利下げを行い実質ゼロ金利としたことに加え、量的緩和政策の再開も決定しました。FRBはその後も様々かつ大規模な金融政策を打ち出す一方、米国政府も新型コロナウイルスの感染拡大に対応する財政政策を打ち出しました。米国10年国債利回りは期首の1.9%台から大きく低下し0.6%台で期末を迎えました。

欧州の債券市場でも、新型コロナウイルスの感染拡大を背景に景気悪化懸念が強まる中、各国の債券利回りは低下しました。ドイツ10年国債利回りは期首の-0.2%台から低下し-0.4%台で期末を迎えました。

新興国の債券市場は、新型コロナウイルスの世界的な感染拡大を背景に投資家のリスク回避姿勢が強まり、一時は売られて大きく利回りが上昇しましたが、その後、主要先進国に合わせて各国が金融緩和姿勢を強めたことなどを背景に利回りは全般に低下しました。

(外国為替市場)

当期、米ドルの対円相場は期首の1米ドル109円台半ばから期末には106円台後半へとドル安円高となりました。

2020年1月初、米軍によるイラン高官の殺害に伴う軍事的緊張の高まりなどを受けて、一時1米ドル107円台までドル安円高が進みました。2月に入ると、発表された1月の米供給管理協会（ISM）製造業指数が改善を示したことや中国当局による大規模な流動性供給への期待などを背景に一時1米ドル112円台までドル高円安が進む局面もありましたが、その後、新型コロナウイルスの世界的な感染が広がる中、投資家のリスク回避姿勢が強まり、世界的な株安とともに原油価格も急落、そのような環境下で円が買われ、3月上旬には一時1米ドル101円台までドル安円高が進みました。その後、金融市場全般が大きく変動する中で米ドルの需給がひっ迫し、一時1米ドル111円台まで米ドルが急反発したものの、FRBによる金融支援策や米国政府による財政政策などを受け再び米ドルが弱含む展開となり、結局、米ドルの対円相場は期首を下回る水準で期末を終えました。

ユーロは、米ドルに対してはやや堅調となりましたが、円に対してはやや軟調となりました。また、新興国通貨は全般に軟調となりました。

当ファンドのポートフォリオ

(2019年12月21日～2020年6月22日)

(テンプレトン世界債券ファンド 限定為替ヘッジコース)

「テンプレトン世界債券ファンド 限定為替ヘッジコース」は、当ファンドの運用の基本方針にもとづき、「テンプレトン・グローバル・ボンド・ファンド J P Y 限定為替ヘッジ・クラス」を高位に組み入れました。また、「日本短期債券ファンド (適格機関投資家限定)」受益証券への投資も行いました。

当期末の組入比率は、「テンプレトン・グローバル・ボンド・ファンド J P Y 限定為替ヘッジ・クラス」が98.9%、「日本短期債券ファンド (適格機関投資家限定)」が0.1%となりました。

(投資対象ファンド：テンプレトン・グローバル・ボンド・ファンド J P Y 限定為替ヘッジ・クラス)

<国・地域配分>

主な国・地域別配分については、日本25.0%、韓国12.6%、メキシコ9.8%、ノルウェー8.8%、インドネシア8.1%となりました。

<通貨別配分>

主な通貨別配分については、米ドル57.7%、円54.2%、ノルウェークローネ8.8%となる一方で、ユーロ34.3%、豪ドル15.7%となりました。

<信用格付別配分>

主な配分については、投資適格75.2%、非投資適格11.5%、その他13.3%となりました。

(2020年5月末時点)

(投資対象ファンド：日本短期債券ファンド (適格機関投資家限定))

主として日本短期債券マザーファンドを通じて、わが国の公社債・金融商品に投資し信託財産の安定的な成長を目指して安定運用を行いました。

当ファンドのベンチマークとの差異

(2019年12月21日～2020年6月22日)

当ファンドはベンチマークや参考指数を設けていないため、本項目は記載しておりません。

分配金

(2019年12月21日～2020年6月22日)

当期の収益分配につきましては、基準価額水準、市況動向等を勘案して次表の通りとさせていただきます。

なお、留保された収益の運用につきましては、特に制限を設けず元本部分と同一の運用を行います。

○分配原資の内訳

(単位:円、1万口当たり、税込み)

項 目	第19期	
	2019年12月21日～ 2020年6月22日	
当期分配金	10	
(対基準価額比率)	0.100%	
当期の収益	10	
当期の収益以外	-	
翌期繰越分配対象額	3,993	

(注) 対基準価額比率は当期分配金(税込み)の期末基準価額(分配金込み)に対する比率であり、ファンドの収益率とは異なります。

(注) 当期の収益、当期の収益以外は小数点以下切捨てで算出しているため合計が当期分配金と一致しない場合があります。

今後の運用方針

(テンプレトン世界債券ファンド 限定為替ヘッジコース)

「テンプレトン世界債券ファンド 限定為替ヘッジコース」は、当ファンドの運用の基本方針にもとづき、「テンプレトン・グローバル・ボンド・ファンド JPY限定為替ヘッジ・クラス」および「日本短期債券ファンド(適格機関投資家限定)」へ投資を行います。「テンプレトン・グローバル・ボンド・ファンド JPY限定為替ヘッジ・クラス」への投資比率は高位を維持する方針です。

(投資対象ファンド: テンプレトン・グローバル・ボンド・ファンド JPY限定為替ヘッジ・クラス)

○市場見通し(2020年5月末時点)

世界は依然として新型コロナウイルスによる経済的な影響の初期段階にあることから、ポートフォリオでリスクを積み増すには時期尚早であると考えます。運用チームでは、直近のリスク資産の上昇は、市場では感染流行第二波や金融市場の二番底に対するリスクが過小評価されている表れであると考えます。現在は、安全な投資先と考える特定の資産に注目している一方、利回りの高い新興国において相対的に堅調な国内経済を有している国への選別的な投資を行っています。低金利やマイナス金利となっている先進国債券利回りは、今後も歴史的な低水準で推移することが見込まれ、債券価格の上昇余地は限定的であると考えており、リターンの源泉は別的手段で獲得する方針です。

ポートフォリオでは、脆弱な資産クラスの価格との相関を低める一方、相対的に高いインカムの獲得と元本の確保を目指しています。また、キャッシュおよび流動性の高い米国短期国債のポジションを積み上げることで、今後投資機会が訪れた際に迅速に対応できるようにしています。

資産クラスによっては、2008年の世界金融危機以降のようなV字回復を期待した動きとなっている市場があります。しかし、運用チームではより緩やかな回復を想定しており、持続的な回復局面に至るまでに多くの上昇や調整が繰り返されるものと考えます。新型コロナウイルスのパンデミックはいつまで

継続するのか、また経済活動再開後に感染の再拡大が生じるのか、などについて予想することは依然として困難です。

新型コロナウイルスのパンデミック前の世界が既に不安定な状況であったということが、現在の危機的状況をさらに複雑なものとしています。具体的には、地政学的リスクの高まり、貿易摩擦、政治の二極化、先進国における際限のない財政赤字、主要国における低金利環境の継続、そしてクレジットセクターの過剰債務などといった要素が経済あるいは金融ショックに対して脆弱な環境を創り出したと言えます。運用チームでは過去数四半期にわたりこれらのリスクに懸念を抱いてきており、ポートフォリオでは昨年より安全資産を積み増す一方、様々な新興国市場におけるリスクエクスポージャーの調整を行ってきました。新型コロナウイルス感染拡大や原油価格の急落などを予想していたわけではありませんが、不安定な市場環境がこのような予見できない事象によって脆さを露呈することを懸念していました。

○運用方針

全体として、ポートフォリオのデュレーションを短めに維持します。イールドカーブのスティープ化を受け、米国債に対するマイナスデュレーションのポジションを解消し、現在は流動性および利回りの観点から米国債の短期ゾーンを選好しています。また、強固なファンダメンタルズを有し魅力的なリスク調整後の利回りを有する国の通貨を選別的に保有しています。一方、それらのリスクに対し、円やスイスフランといった安全資産と考える通貨を持つことでポートフォリオ全体のリスクバランスを調整しています。また、新興国通貨全般のリスクに対するヘッジとして豪ドルを売り建てていることに加え、韓国ウォン、メキシコペソ、ブラジルレアルについては各々為替ヘッジを行っています。また、大幅に割高となっているうえ、債務不履行や破綻に対し脆弱であると考えられるクレジット市場への投資は回避しています。全体として、割高で今も継続する経済への影響に対して脆弱な資産クラスを回避し、ポートフォリオを分散させてリスクの低減を図っていく方針です。

(投資対象ファンド：日本短期債券ファンド（適格機関投資家限定）)

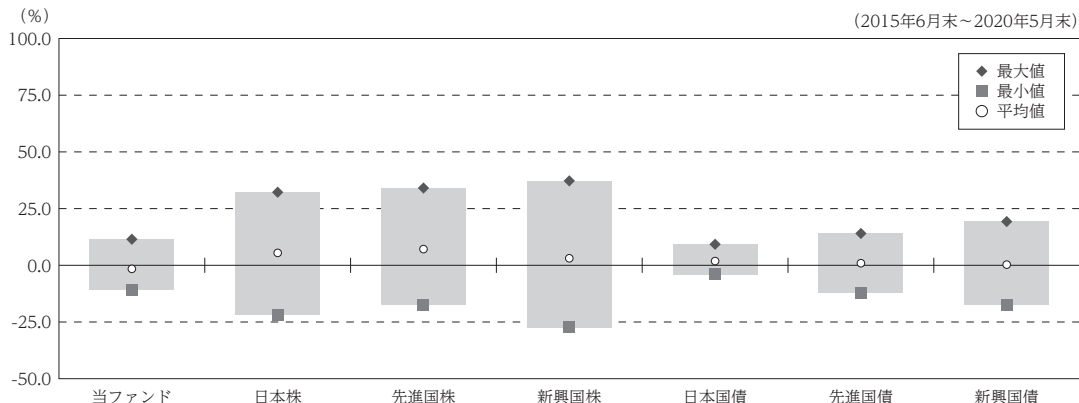
今後も引き続き、主として日本短期債券マザーファンドを通じて、わが国の公社債・金融商品に投資し、信託財産の安定的な成長をめざして安定運用を行う方針です。

引き続きご愛顧賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

当ファンドの概要

商品分類	追加型投信／内外／債券	
信託期間	無期限	
運用方針	投資信託財産の着実な成長と安定した収益の確保をめざして運用を行います。	
主要投資対象	当ファンド	①フランクリン・テンプレトン・インベストメント・ファンズーテンプレトン・グローバル・ボンド・ファンドの円建て外国投資証券Class I (Mdis) JPY-H1 ②日本短期債券ファンド（適格機関投資家限定）の受益証券
	フランクリン・テンプレトン・インベストメント・ファンズーテンプレトン・グローバル・ボンド・ファンド Class I (Mdis) JPY-H1	世界各国（新興国を含む）の国債および政府機関債等
	日本短期債券ファンド（適格機関投資家限定）	日本短期債券マザーファンドの受益証券を通じてわが国の公社債、金融商品に投資
運用方法	主として、外国投資証券である「フランクリン・テンプレトン・インベストメント・ファンズーテンプレトン・グローバル・ボンド・ファンド（Class I (Mdis) JPY-H1）」への投資を通じて、世界各国（新興国を含む）の国債および政府機関債等を実質的な投資を行います。また、証券投資信託である「日本短期債券ファンド（適格機関投資家限定）」の受益証券への投資も行います。 外国投資証券への投資は高位（概ね信託財産の純資産総額の90%以上）を維持することを基本とします。	
分配方針	毎決算時（毎年6月および12月の20日（休業日の場合は翌営業日））に、原則として以下の方針に基づき分配を行います。 ①分配対象額の範囲は、経費控除後の繰越分を含めた配当等収益と売買益（評価益を含みます。）等の全額とします。 ②収益分配金額は、委託者が毎計算期末の基準価額水準、市況動向等を勘案して決定します。ただし、分配対象収益が少額の場合には分配を行わないことがあります。 ③留保益の運用については、特に制限を設けず、委託者の判断に基づき、元本部分と同一の運用を行います。	

○代表的な資産クラスとの騰落率の比較



(単位: %)

	当ファンド	日本株	先進国株	新興国株	日本国債	先進国債	新興国債
平均値	-1.6	5.5	7.1	3.1	1.9	0.9	0.3
最大値	11.5	32.2	34.1	37.2	9.3	14.0	19.3
最小値	-10.8	-22.0	-17.5	-27.4	-4.0	-12.3	-17.4

2015年6月～2020年5月の5年間の各月末における直近1年間の騰落率の平均・最大・最小を、当ファンドおよび他の代表的な資産クラスについて表示したものです。

(注) すべての資産クラスが当ファンドの投資対象とは限りません。

(注) 決算日に対応した数値とは異なります。

(注) 当ファンドは分配金再投資基準価額の騰落率です。

《各資産クラスの指数》

日本株：東証株価指数 (TOPIX) (配当込み)

先進国株：MSCI コクサイ・インデックス (配当込み、円ベース)

新興国株：MSCI エマージング・マーケット・インデックス (配当込み、円ベース)

日本国債：NOMURA-BPI 国債

先進国債：FTSE 世界国債インデックス (除く日本、円ベース)

新興国債：JPモルガン・ガバメント・ボンド・インデックス-エマージング・マーケット・グローバル・ディバースファイド (円ベース)

(注) 海外の指数は、為替ヘッジなしによる投資を想定して、円ベースの指数を採用しています。

なお、JPモルガン・ガバメント・ボンド・インデックス-エマージング・マーケット・グローバル・ディバースファイド (円ベース) は、委託会社で円換算しています。

代表的な資産クラスの指数の著作権等についてはこの運用報告書の最後に記載してありますので、ご参照ください。

当ファンドのデータ

〈テンプレートン世界債券ファンド 限定為替ヘッジコース〉

組入資産の内容

(2020年6月22日現在)

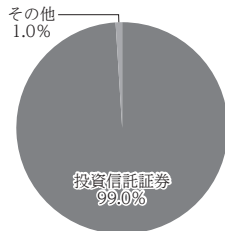
○組入上位ファンド

銘	柄	名	第19期末
			%
フランクリン・テンプレートン・インベストメント・ファンズ-テンプレートン・グローバル・ボンド・ファンド Class I (Mdis) JPY-HI			98.9
日本短期債券ファンド(適格機関投資家限定)			0.1
	組入銘柄数		2銘柄

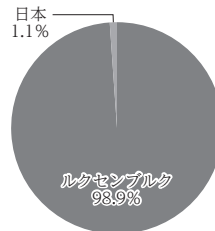
(注) 組入比率は純資産総額に対する評価額の割合です。

(注) 組入銘柄に関する詳細な情報等につきましては、運用報告書(全体版)に記載しております。

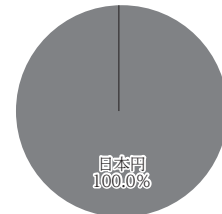
○資産別配分



○国別配分



○通貨別配分



(注) 比率は当ファンドの純資産総額に対する割合です。

(注) 国別配分につきましては発行国もしくは投資国を表示しております。

(注) その他にはコール・ローン等を含む場合があります。

純資産等

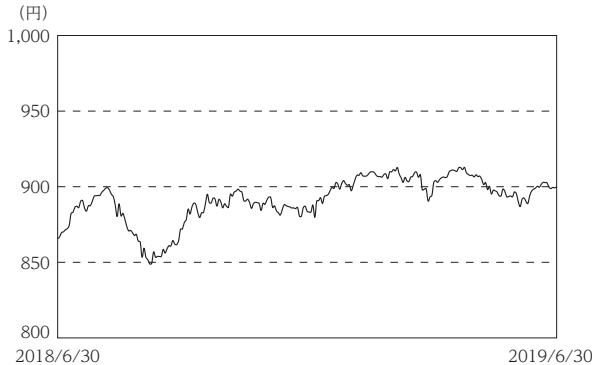
項目	第19期末
	2020年6月22日
純資産総額	4,222,992,996円
受益権総口数	4,216,468,435口
1万口当たり基準価額	10,015円

(注) 期中における追加設定元本額は25,589,018円、同解約元本額は145,509,673円です。

組入上位ファンドの概要

フランクリン・テンプレトン・インベストメント・ファンズ・テンプレトン・グローバル・ボンド・ファンド
(2018年7月1日～2019年6月30日)

○基準価額の推移



(注) 当ファンドが投資対象とするClass I (Mdis) JPY-H1の分配金再投資基準価額です。

○費用の明細

(2018年7月1日～2019年6月30日)

項 目	比 率
運用報酬	0.55%
管理会社報酬、保管銀行報酬、監査費用等	0.29%
合計	0.84%

(注) 当ファンドが投資対象とするClass I (Mdis) JPY-H1の数値です。
(注) 1万口当たりの費用明細に代えて、当期間における各費用の平均純資産総額に対する比率を記載したものです。

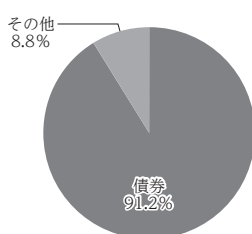
○上位 10 銘柄

(2019年6月30日現在)

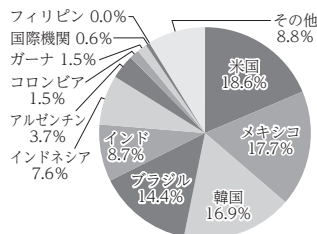
銘 柄 名	通 貨	比 率
Korea Treasury Bond, senior note, 2.00%, 03/10/21	韓国ウォン	4.55%
Notas do Tesouro Nacional, 10.00%, 01/01/27	ブラジルレアル	4.35%
Government of Mexico, senior note, M, 5.00%, 12/11/19	メキシコペソ	4.25%
FHLB, 0.00%, 07/12/19	米ドル	3.18%
Notas do Tesouro Nacional, 10.00%, 01/01/23	ブラジルレアル	3.11%
FHLB, 0.00%, 07/03/19	米ドル	2.52%
Government of Mexico, senior note, M, 7.25%, 12/09/21	メキシコペソ	2.43%
Korea Treasury Bond, senior note, 1.375%, 09/10/21	韓国ウォン	2.30%
U.S. Treasury Bill, 0.00%, 08/29/19	米ドル	2.20%
Government of Mexico, senior bond, M, 6.50%, 06/09/22	メキシコペソ	2.19%
組入銘柄数	114銘柄	

(注) 比率は純資産総額に対する評価額の割合です。
(注) 全銘柄に関する詳細な情報等につきましては、運用報告書(全体版)に記載しております。

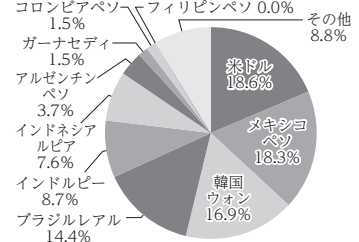
○資産別配分



○国別配分



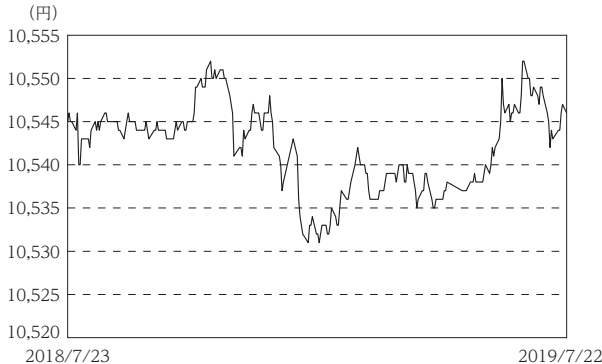
○通貨別配分



(注) 資産別・国別・通貨別配分のデータは2019年6月30日現在のものです。
(注) 比率は純資産総額に対する評価額の割合です。

日本短期債券ファンド（適格機関投資家限定）（2018年7月24日～2019年7月22日）

○基準価額の推移



○1万口当たりの費用明細

(2018年7月24日～2019年7月22日)

項目	当期		項目の概要
	金額	比率	
(a) 信託報酬 (投 信 会 社) (販 売 会 社) (受 託 会 社)	15 (11) (1) (2)	0.140 (0.108) (0.011) (0.022)	(a) 信託報酬＝期中の平均基準価額×信託報酬率×(期中の日数÷年間日数) ファンドの運用・調査、受託会社への運用指図、基準価額の算出、目論見書等の作成等の対価 交付運用報告書等各種書類の送付、顧客口座の管理、購入後の情報提供等の対価 ファンドの財産の保管および管理、委託会社からの運用指図の実行等の対価
(b) その他費用 (監 査 費 用) (そ の 他)	0 (0) (0)	0.003 (0.003) (0.000)	(b) その他費用＝期中のその他費用÷期中の平均受益権口数 ファンドの決算時等に監査法人から監査を受けるための費用 信託事務の処理等に要するその他諸費用
合計	15	0.143	
期中の平均基準価額は、10,542円です。			

(注) 期中の費用（消費税等のかかるものは消費税等を含む）は、追加・解約により受益権口数に変動があるため、簡便法により算出した結果です。

(注) 各金額は項目ごとに円未満は四捨五入してあります。

(注) その他費用は、このファンドが組み入れている親投資信託が支払った金額のうち、当ファンドに対応するものを含みます。

(注) 各比率は1万口当たりのそれぞれの費用金額（円未満の端数を含む）を期中の平均基準価額で除して100を乗じたもので、項目ごとに小数第3位未満は四捨五入してあります。

以下のデータは、日本短期債券ファンド（適格機関投資家限定）の主要投資対象である日本短期債券マザーファンドの内容です。

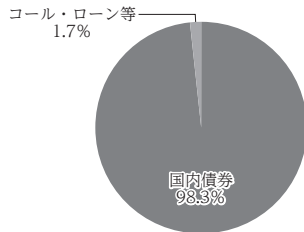
○組入上位 10 銘柄

(2019年7月22日現在)

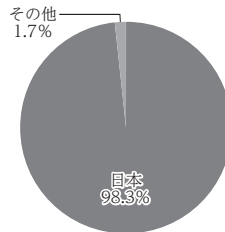
	銘柄	種類	国	業種 / 種別	比率 %
1	第28回三菱東京UFJ銀行(劣後特約付)	債券	日本	社債	5.5
2	第23回三井住友銀行(劣後特約付)	債券	日本	社債	5.5
3	第6回りそな銀行(劣後特約付)	債券	日本	社債	5.5
4	第44回野村ホールディングス	債券	日本	社債	5.5
5	第29回相鉄ホールディングス	債券	日本	社債	5.5
6	第27回大和証券グループ本社	債券	日本	社債	5.5
7	第527回関西電力	債券	日本	社債	5.5
8	第50回日本電気	債券	日本	社債	5.5
9	第11回ウエストパック・バンキング・コーポレーション	債券	日本	社債	5.4
10	第31回ソニー	債券	日本	社債	5.4
組入銘柄数		18銘柄			

- ・比率はマザーファンドの純資産総額に対する割合です。
- ・なお、全銘柄に関する詳細な情報等については、運用報告書（全体版）をご覧ください。

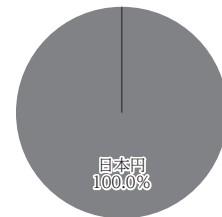
○資産別配分



○国別配分



○通貨別配分



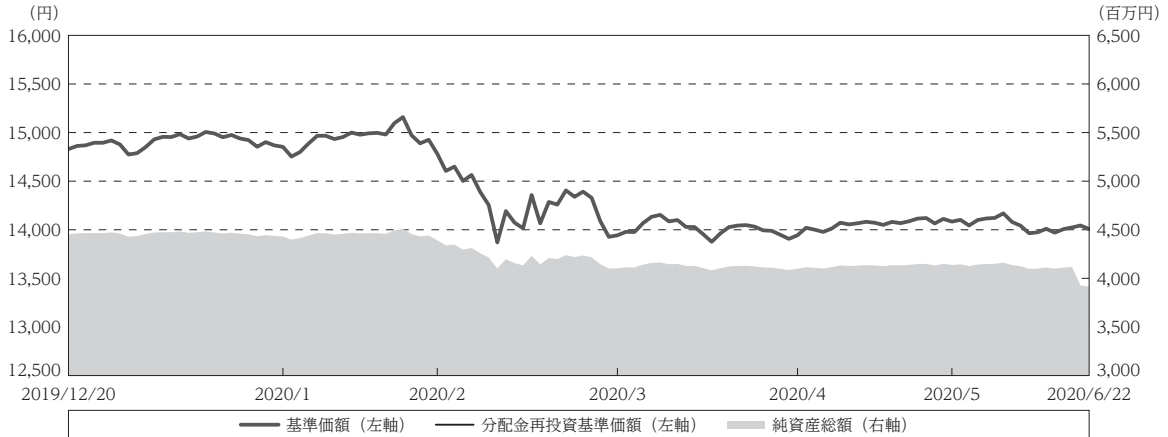
- ・比率はマザーファンドの純資産総額に対する割合です。構成比率が5%未満の項目は「その他」に分類しています。
- ・国別配分の「その他」には、コール・ローン等のように、複数の金融機関等（国内外）を相手先とし他のファンドの余裕資金等と合せて運用しているものを含みます。

〈テンプレートン世界債券ファンド 為替ヘッジなしコース〉

運用経過

期中の基準価額等の推移

(2019年12月21日～2020年6月22日)



期首：14,830円

期末：14,006円 (既払分配金(税込み):10円)

騰落率：△ 5.5% (分配金再投資ベース)

- (注) 分配金再投資基準価額は、分配金(税込み)を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。
- (注) 分配金を再投資するかどうかについてはお客様がご利用のコースにより異なります。また、ファンドの購入価額により課税条件も異なります。したがって、お客様の損益の状況を示すものではありません。
- (注) 分配金再投資基準価額は、期首(2019年12月20日)の値が基準価額と同一となるように指数化しております。
- (注) 上記騰落率は、小数点以下第2位を四捨五入して表示しております。
- (注) 当ファンドが投資を行う投資対象ファンドは、特定のベンチマークを上回ることを目指して運用するものではありません。したがって、当ファンドもベンチマークを設定していません。

○基準価額の主な変動要因

主な投資対象ファンドである「フランクリン・テンプレートン・インベストメント・ファンズーテンプレートン・グローバル・ボンド・ファンド」(以下、テンプレートン・グローバル・ボンド・ファンドといいます。)の円建て外国投資証券「Class I (Mdis) JPY」(以下、JPYクラスといいます。)の分配金再投資基準価額が値下がりしたこと、当ファンドの分配金再投資基準価額は下落しました。詳しくは後掲の「■投資環境」をご参照ください。

なお、投資対象ファンドの主な変動要因は以下の通りです。

- ・投資を行っている新興国を含む世界各国の国債、政府機関債等からのインカムゲイン
- ・投資を行っている新興国を含む世界各国の国債、政府機関債等の価格変動
- ・投資を行っている先進国通貨および新興国通貨の対米ドルの価格変動

1 万口当たりの費用明細

(2019年12月21日～2020年6月22日)

項 目	当 期		項 目 の 概 要
	金 額	比 率	
(a) 信 託 報 酬	78	0.542	(a) 信託報酬 = [期中の平均基準価額] × 信託報酬率
(投 信 会 社)	(16)	(0.111)	ファンドの運用、受託会社への指図、基準価額の算出、開示資料作成等の対価
(販 売 会 社)	(60)	(0.417)	購入後の情報提供、運用報告書等各種書類の送付、口座内でのファンドの管理および事務手続き等の対価
(受 託 会 社)	(2)	(0.014)	ファンドの運用財産の保管・管理、委託会社からの運用指図の実行等の対価
(b) そ の 他 費 用	1	0.004	(b) その他費用 = $\frac{\text{[期中のその他費用]}}{\text{[期中の平均受益権口数]}}$
(監 査 費 用)	(1)	(0.004)	その他費用
(そ の 他)	(0)	(0.000)	・ 監査費用は、監査法人等に支払うファンドの監査に係る費用 ・ その他は、金銭信託預入に係る手数料等
合 計	79	0.546	
期中の平均基準価額は、14,414円です。			

(注) 期中の費用（消費税等のかかるものは消費税等を含む）は追加、解約によって受益権口数に変動があるため、簡便法により算出した結果です。

(注) 各金額は各項目ごとに円未満は四捨五入してあります。

(注) 各項目の費用は、このファンドが組入れている投資信託証券が支払った費用を含みません。

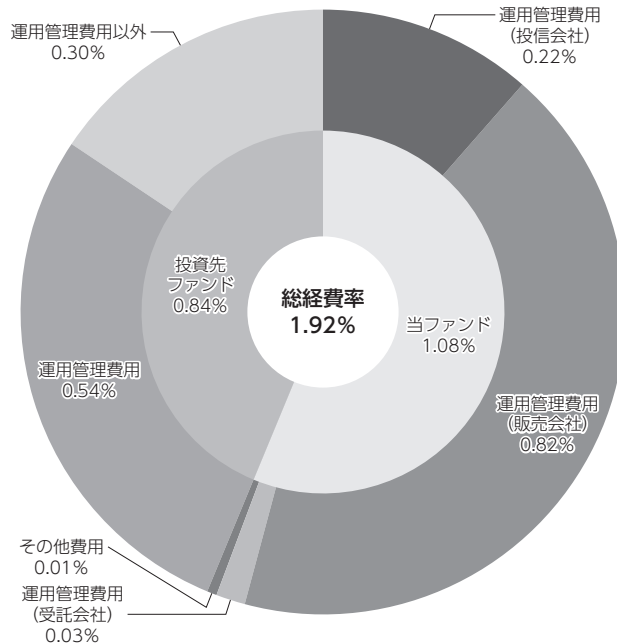
(注) 当該投資信託証券の直近の計算期末時点における「1万口当たりの費用明細」等が取得できるものについては「組入上位ファンドの概要」に表示しております。

(注) 各比率は1万口当たりのそれぞれの費用金額を期中の平均基準価額で除して100を乗じたもので、項目ごとに小数第3位未満は四捨五入してあります。

(参考情報)

○総経費率

期中の運用・管理にかかった費用の総額（原則として、募集手数料、売買委託手数料および有価証券取引税を除く。）を期中の平均受益権口数に期中の平均基準価額（1口当たり）を乗じた数で除した総経費率（年率）は1.92%です。



(単位:%)

総経費率(①+②+③)	1.92
①当ファンドの費用の比率	1.08
②投資先ファンドの運用管理費用の比率	0.54
③投資先ファンドの運用管理費用以外の比率	0.30

(注) 当ファンドの費用は1万口当たりの費用明細において用いた簡便法により算出したものです。

(注) 各費用は、原則として、募集手数料、売買委託手数料および有価証券取引税を含みません。

(注) 各比率は、年率換算した値です。

(注) 投資先ファンドとは、当ファンドが組入れている投資信託証券（マザーファンドを除く。）です。

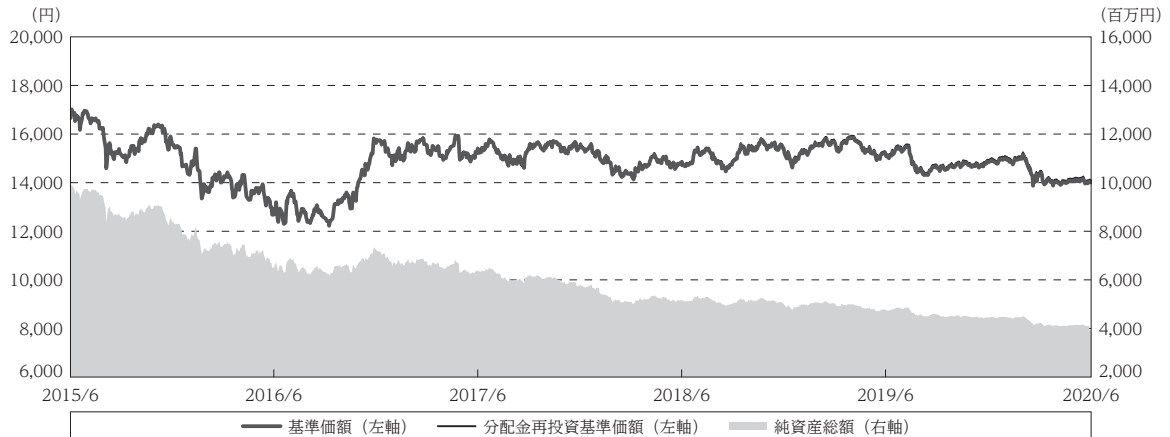
(注) 当ファンドの費用は、マザーファンドが支払った費用を含み、投資先ファンドが支払った費用を含みません。

(注) 当ファンドの費用と投資先ファンドの費用は、計上された期間が異なる場合があります。

(注) 上記の前提条件で算出したものです。このため、これらの値はあくまでも参考であり、実際に発生した費用の比率とは異なります。

最近5年間の基準価額等の推移

(2015年6月22日～2020年6月22日)



- (注) 分配金再投資基準価額は、分配金(税込み)を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。
 (注) 分配金を再投資するかどうかについてはお客様がご利用のコースにより異なります。また、ファンドの購入価額により課税条件も異なります。したがって、お客様の損益の状況を示すものではありません。
 (注) 分配金再投資基準価額は、2015年6月22日の値が基準価額と同一となるように指数化しております。

	2015年6月22日 決算日	2016年6月20日 決算日	2017年6月20日 決算日	2018年6月20日 決算日	2019年6月20日 決算日	2020年6月22日 決算日
基準価額 (円)	16,655	12,682	15,401	14,735	15,190	14,006
期間分配金合計(税込み) (円)	—	20	20	20	20	20
分配金再投資基準価額騰落率 (%)	—	△ 23.7	21.6	△ 4.2	3.2	△ 7.7
純資産総額 (百万円)	9,728	6,508	6,422	5,145	4,776	3,915

- (注) 上記騰落率は、小数点以下第2位を四捨五入して表示しております。
 (注) 純資産総額の単位未満は切捨てて表示しております。
 (注) 騰落率は1年前の決算応当日との比較です。
 (注) 当ファンドは、「フランクリン・テンプレトン・インベストメント・ファンズーテンプレトン・グローバル・ボンド・ファンド Class I (Mdis) JPY」および「日本短期債券ファンド(適格機関投資家限定)」に投資するファンド・オブ・ファンズです。
 ファンドの収益率を測る適切なインデックスが存在しないため、ベンチマークおよび参考指数はありません。

投資環境

(2019年12月21日～2020年6月22日)

(債券市場)

当期、新型コロナウイルスの世界的な感染拡大に伴う世界経済の悪化懸念を受け、米国10年国債利回りは低下（債券価格は上昇）しました。また、欧州や新興国の長期債の利回りも全般に低下しました。

米国の債券市場では、期首から2020年1月中旬にかけては、米中貿易交渉の進展を巡る観測などを背景にレンジ内での動きとなっていました。その後、新型コロナウイルスの感染が世界へと広がるにつれ、世界経済の成長減速が懸念され、投資家がリスク回避姿勢を強めたことなどを背景に安全資産とみられる債券への資金移動が急速に進みました。米国10年国債利回りは3月初に史上初となる1%割れとなった一方、3月3日に米連邦準備理事会（FRB）はリーマンショック時以来となる臨時の米連邦公開市場委員会（FOMC）を開催し、政策金利であるフェデラルファンド（FF）金利の誘導目標レンジを0.5%引き下げました。さらに同月中旬にも緊急のFOMCを開催し、1.0%の大幅な利下げを行い実質ゼロ金利としたことに加え、量的緩和政策の再開も決定しました。FRBはその後も様々かつ大規模な金融政策を打ち出す一方、米国政府も新型コロナウイルスの感染拡大に対応する財政政策を打ち出しました。米国10年国債利回りは期首の1.9%台から大きく低下し0.6%台で期末を迎えました。

欧州の債券市場でも、新型コロナウイルスの感染拡大を背景に景気悪化懸念が強まる中、各国の債券利回りは低下しました。ドイツ10年国債利回りは期首の-0.2%台から低下し-0.4%台で期末を迎えました。

新興国の債券市場は、新型コロナウイルスの世界的な感染拡大を背景に投資家のリスク回避姿勢が強まり、一時は売られて大きく利回りが上昇しましたが、その後、主要先進国に合わせて各国が金融緩和姿勢を強めたことなどを背景に利回りは全般に低下しました。

(外国為替市場)

当期、米ドルの対円相場は期首の1米ドル109円台半ばから期末には106円台後半へとドル安円高となりました。

2020年1月初、米軍によるイラン高官の殺害に伴う軍事的緊張の高まりなどを受けて、一時1米ドル107円台までドル安円高が進みました。2月に入ると、発表された1月の米供給管理協会（ISM）製造業指数が改善を示したことや中国当局による大規模な流動性供給への期待などを背景に一時1米ドル112円台までドル高円安が進む局面もありましたが、その後、新型コロナウイルスの世界的な感染が広がる中、投資家のリスク回避姿勢が強まり、世界的な株安とともに原油価格も急落、そのような環境下で円が買われ、3月上旬には一時1米ドル101円台までドル安円高が進みました。その後、金融市場全般が大きく変動する中で米ドルの需給がひっ迫し、一時1米ドル111円台まで米ドルが急反発したものの、FRBによる金融支援策や米国政府による財政政策などを受け再び米ドルが弱含む展開となり、結局、米ドルの対円相場は期首を下回る水準で期末を終えました。

ユーロは、米ドルに対してはやや堅調となりましたが、円に対してはやや軟調となりました。また、新興国通貨は全般に軟調となりました。

当ファンドのポートフォリオ

(2019年12月21日～2020年6月22日)

(テンプレトン世界債券ファンド 為替ヘッジなしコース)

「テンプレトン世界債券ファンド 為替ヘッジなしコース」は、当ファンドの運用の基本方針にもとづき、「テンプレトン・グローバル・ボンド・ファンド JPYクラス」を高位に組み入れました。また、「日本短期債券ファンド（適格機関投資家限定）」受益証券への投資も行いました。

当期末の組入比率は、「テンプレトン・グローバル・ボンド・ファンド JPYクラス」が98.7%、「日本短期債券ファンド（適格機関投資家限定）」が0.3%となりました。

(投資対象ファンド：テンプレトン・グローバル・ボンド・ファンド JPYクラス)

<国・地域配分>

主な国・地域別配分については、日本25.0%、韓国12.6%、メキシコ9.8%、ノルウェー8.8%、インドネシア8.1%となりました。

<通貨別配分>

主な通貨別配分については、米ドル57.7%、円54.2%、ノルウェークローネ8.8%となる一方で、ユーロ34.3%、豪ドル15.7%となりました。

<信用格付別配分>

主な配分については、投資適格75.2%、非投資適格11.5%、その他13.3%となりました。

(2020年5月末時点)

(投資対象ファンド：日本短期債券ファンド（適格機関投資家限定）)

主として日本短期債券マザーファンドを通じて、わが国の公社債・金融商品に投資し信託財産の安定的な成長を目指して安定運用を行いました。

当ファンドのベンチマークとの差異

(2019年12月21日～2020年6月22日)

当ファンドはベンチマークや参考指数を設けていないため、本項目は記載しておりません。

分配金

(2019年12月21日～2020年6月22日)

当期の収益分配につきましては、基準価額水準、市況動向等を勘案して次表の通りとさせていただきます。

なお、留保された収益の運用につきましては、特に制限を設けず元本部分と同一の運用を行います。

○分配原資の内訳

(単位:円、1万口当たり、税込み)

項 目	第19期
	2019年12月21日～ 2020年6月22日
当期分配金 (対基準価額比率)	10 0.071%
当期の収益	10
当期の収益以外	—
翌期繰越分配対象額	8,413

(注) 対基準価額比率は当期分配金(税込み)の期末基準価額(分配金込み)に対する比率であり、ファンドの収益率とは異なります。

(注) 当期の収益、当期の収益以外は小数点以下切捨てで算出しているため合計が当期分配金と一致しない場合があります。

今後の運用方針

(テンプレートン世界債券ファンド 為替ヘッジなしコース)

「テンプレートン世界債券ファンド 為替ヘッジなしコース」は、当ファンドの運用の基本方針にもとづき、「テンプレートン・グローバル・ボンド・ファンド JPYクラス」および「日本短期債券ファンド(適格機関投資家限定)」へ投資を行います。「テンプレートン・グローバル・ボンド・ファンド JPYクラス」への投資比率は高位を維持する方針です。

(投資対象ファンド：テンプレートン・グローバル・ボンド・ファンド JPYクラス)

○市場見通し(2020年5月末時点)

世界は依然として新型コロナウイルスによる経済的な影響の初期段階にあることから、ポートフォリオでリスクを積み増すには時期尚早であると考えます。運用チームでは、直近のリスク資産の上昇は、市場では感染流行第二波や金融市場の二番底に対するリスクが過小評価されている表れであると考えます。現在は、安全な投資先と考える特定の資産に注目している一方、利回りの高い新興国において相対的に堅調な国内経済を有している国への選別的な投資を行っています。低金利やマイナス金利となっている先進国債券利回りは、今後も歴史的な低水準で推移することが見込まれ、債券価格の上昇余地は限定的であると考えており、リターンの源泉は別の手段で獲得する方針です。

ポートフォリオでは、脆弱な資産クラスの価格との相関を低める一方、相対的に高いインカムの獲得と元本の確保を目指しています。また、キャッシュおよび流動性の高い米国短期国債のポジションを積み上げることで、今後投資機会が訪れた際に迅速に対応できるようにしています。

資産クラスによっては、2008年の世界金融危機以降のようなV字回復を期待した動きとなっている市場があります。しかし、運用チームではより緩やかな回復を想定しており、持続的な回復局面に至るまでに多くの上昇や調整が繰り返されるものと考えます。新型コロナウイルスのパンデミックはいつまで

継続するのか、また経済活動再開後に感染の再拡大が生じるのか、などについて予想することは依然として困難です。

新型コロナウイルスのパンデミック前の世界が既に不安定な状況であったということが、現在の危機的状況をさらに複雑なものとしています。具体的には、地政学的リスクの高まり、貿易摩擦、政治の二極化、先進国における際限のない財政赤字、主要国における低金利環境の継続、そしてクレジットセクターの過剰債務などといった要素が経済あるいは金融ショックに対して脆弱な環境を創り出したと言えます。運用チームでは過去数四半期にわたりこれらのリスクに懸念を抱いてきており、ポートフォリオでは昨年より安全資産を積み増す一方、様々な新興国市場におけるリスクエクスポージャーの調整を行ってきました。新型コロナウイルス感染拡大や原油価格の急落などを予想していたわけではありませんが、不安定な市場環境がこのような予見できない事象によって脆さを露呈することを懸念していました。

○運用方針

全体として、ポートフォリオのデュレーションを短めに維持します。イールドカーブのスティープ化を受け、米国債に対するマイナスデュレーションのポジションを解消し、現在は流動性および利回りの観点から米国債の短期ゾーンを選好しています。また、強固なファンダメンタルズを有し魅力的なリスク調整後の利回りを有する国の通貨を選別的に保有しています。一方、それらのリスクに対し、円やスイスフランといった安全資産と考える通貨を持つことでポートフォリオ全体のリスクバランスを調整しています。また、新興国通貨全般のリスクに対するヘッジとして豪ドルを売り建てていることに加え、韓国ウォン、メキシコペソ、ブラジルレアルについては各々為替ヘッジを行っています。また、大幅に割高となっているうえ、債務不履行や破綻に対し脆弱であると考えられるクレジット市場への投資は回避しています。全体として、割高で今も継続する経済への影響に対して脆弱な資産クラスを回避し、ポートフォリオを分散させてリスクの低減を図っていく方針です。

(投資対象ファンド：日本短期債券ファンド（適格機関投資家限定）)

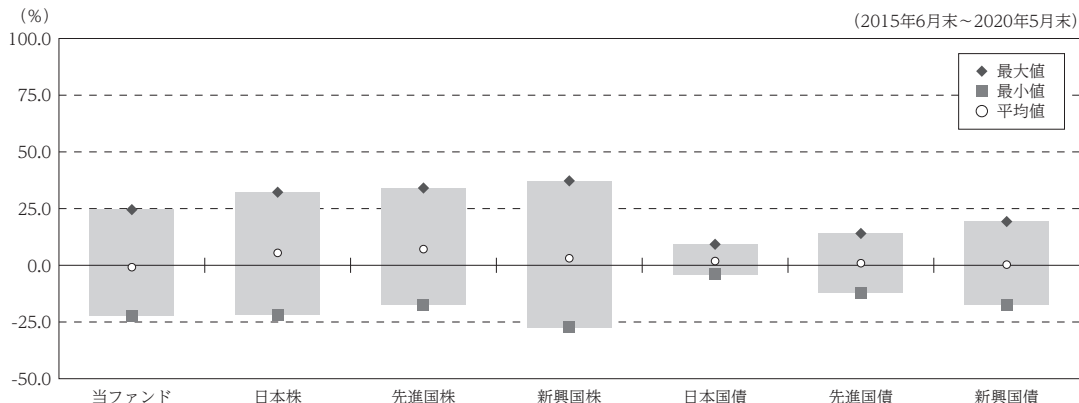
今後も引き続き、主として日本短期債券マザーファンドを通じて、わが国の公社債・金融商品に投資し、信託財産の安定的な成長をめざして安定運用を行う方針です。

引き続きご愛顧賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

当ファンドの概要

商品分類	追加型投信／内外／債券	
信託期間	無期限	
運用方針	投資信託財産の着実な成長と安定した収益の確保をめざして運用を行います。	
主要投資対象	当ファンド	①フランクリン・テンプレトン・インベストメント・ファンズーテンプレトン・グローバル・ボンド・ファンドの円建て外国投資証券Class I (Mdis) JPY ②日本短期債券ファンド（適格機関投資家限定）の受益証券
	フランクリン・テンプレトン・インベストメント・ファンズーテンプレトン・グローバル・ボンド・ファンド Class I (Mdis) JPY	世界各国（新興国を含む）の国債および政府機関債等
	日本短期債券ファンド（適格機関投資家限定）	日本短期債券マザーファンドの受益証券を通じて、わが国の公社債、金融商品に投資
運用方法	主として、外国投資証券である「フランクリン・テンプレトン・インベストメント・ファンズーテンプレトン・グローバル・ボンド・ファンド（Class I (Mdis) JPY）」への投資を通じて、世界各国（新興国を含む）の国債および政府機関債等を実質的な投資を行います。また、証券投資信託である「日本短期債券ファンド（適格機関投資家限定）」の受益証券への投資も行います。 外国投資証券への投資は高位（概ね信託財産の純資産総額の90%以上）を維持することを基本とします。	
分配方針	毎決算時（毎年6月および12月の20日（休業日の場合は翌営業日））に、原則として以下の方針に基づき分配を行います。 ①分配対象額の範囲は、経費控除後の繰越分を含めた配当等収益と売買益（評価益を含みます。）等の全額とします。 ②収益分配金額は、委託者が毎計算期末の基準価額水準、市況動向等を勘案して決定します。ただし、分配対象収益が少額の場合には分配を行わないことがあります。 ③留保益の運用については、特に制限を設けず、委託者の判断に基づき、元本部分と同一の運用を行います。	

○代表的な資産クラスとの騰落率の比較



(単位: %)

	当ファンド	日本株	先進国株	新興国株	日本国債	先進国債	新興国債
平均値	-0.8	5.5	7.1	3.1	1.9	0.9	0.3
最大値	24.5	32.2	34.1	37.2	9.3	14.0	19.3
最小値	-22.4	-22.0	-17.5	-27.4	-4.0	-12.3	-17.4

2015年6月～2020年5月の5年間の各月末における直近1年間の騰落率の平均・最大・最小を、当ファンドおよび他の代表的な資産クラスについて表示したものです。

(注) すべての資産クラスが当ファンドの投資対象とは限りません。

(注) 決算日に対応した数値とは異なります。

(注) 当ファンドは分配金再投資基準価額の騰落率です。

《各資産クラスの指数》

日本株：東証株価指数 (TOPIX) (配当込み)

先進国株：MSCI コクサイ・インデックス (配当込み、円ベース)

新興国株：MSCI エマージング・マーケット・インデックス (配当込み、円ベース)

日本国債：NOMURA-BPI 国債

先進国債：FTSE 世界国債インデックス (除く日本、円ベース)

新興国債：JPモルガン・ガバメント・ボンド・インデックス-エマージング・マーケット・グローバル・ディバシファイド (円ベース)

(注) 海外の指数は、為替ヘッジなしによる投資を想定して、円ベースの指数を採用しています。

なお、JPモルガン・ガバメント・ボンド・インデックス-エマージング・マーケット・グローバル・ディバシファイド (円ベース) は、委託会社で円換算しています。

代表的な資産クラスの指数の著作権等についてはこの運用報告書の最後に記載してありますので、ご参照ください。

当ファンドのデータ

〈テンプレートン世界債券ファンド 為替ヘッジなしコース〉

組入資産の内容

(2020年6月22日現在)

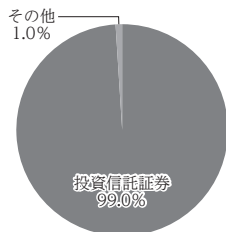
○組入上位ファンド

銘	柄	名	第19期末
			%
フランクリン・テンプレートン・インベストメント・ファンズ	テンプレートン・グローバル・ボンド・ファンド Class I (Mdis)	JPY	98.7
日本短期債券ファンド(適格機関投資家限定)			0.3
組入銘柄数			2銘柄

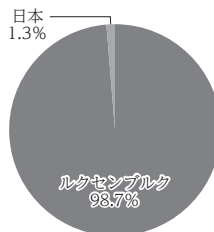
(注) 組入比率は純資産総額に対する評価額の割合です。

(注) 組入銘柄に関する詳細な情報等につきましては、運用報告書(全体版)に記載しております。

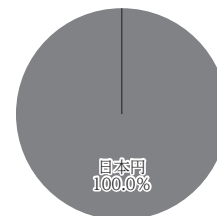
○資産別配分



○国別配分



○通貨別配分



(注) 比率は当ファンドの純資産総額に対する割合です。

(注) 国別配分につきましては発行国もしくは投資国を表示しております。

(注) その他にはコール・ローン等を含む場合があります。

純資産等

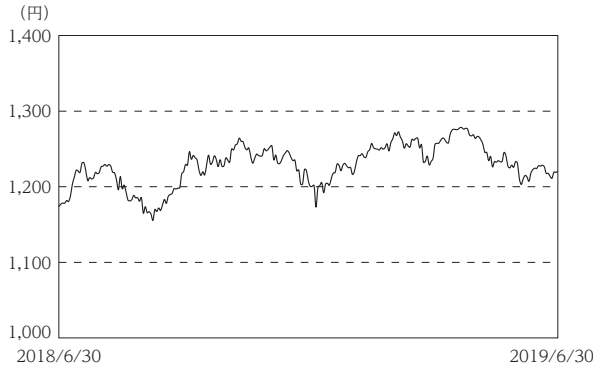
項目	第19期末
	2020年6月22日
純資産総額	3,915,764,755円
受益権総口数	2,795,855,211口
1万口当たり基準価額	14,006円

(注) 期中における追加設定元本額は55,607,281円、同解約元本額は262,229,576円です。

組入上位ファンドの概要

フランクリン・テンプレトン・インベストメント・ファンズ・テンプレトン・グローバル・ボンド・ファンド
(2018年7月1日～2019年6月30日)

○基準価額の推移



(注) 当ファンドが投資対象とする Class I (Mdis) JPY の分配金再投資基準価額です。

○費用の明細

(2018年7月1日～2019年6月30日)

項 目	比 率
運用報酬	0.55%
管理会社報酬、保管銀行報酬、監査費用等	0.30%
合計	0.85%

(注) 当ファンドが投資対象とする Class I (Mdis) JPY の数値です。
(注) 1 万円当たりの費用明細に代えて、当期間における各費用の平均純資産総額に対する比率を記載したものです。

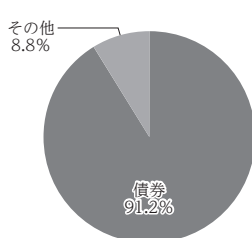
○上位 10 銘柄

(2019年6月30日現在)

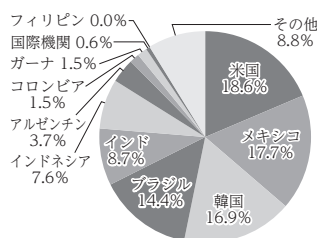
銘 柄 名	通 貨	比 率
Korea Treasury Bond, senior note, 2.00%, 03/10/21	韓国ウォン	4.55%
Notas do Tesouro Nacional, 10.00%, 01/01/27	ブラジルレアル	4.35%
Government of Mexico, senior note, M, 5.00%, 12/11/19	メキシコペソ	4.25%
FHLB, 0.00%, 07/12/19	米ドル	3.18%
Notas do Tesouro Nacional, 10.00%, 01/01/23	ブラジルレアル	3.11%
FHLB, 0.00%, 07/03/19	米ドル	2.52%
Government of Mexico, senior note, M, 7.25%, 12/09/21	メキシコペソ	2.43%
Korea Treasury Bond, senior note, 1.375%, 09/10/21	韓国ウォン	2.30%
U.S. Treasury Bill, 0.00%, 08/29/19	米ドル	2.20%
Government of Mexico, senior bond, M, 6.50%, 06/09/22	メキシコペソ	2.19%
組入銘柄数	114銘柄	

(注) 比率は純資産総額に対する評価額の割合です。
(注) 全銘柄に関する詳細な情報等につきましては、運用報告書(全体版)に記載しております。

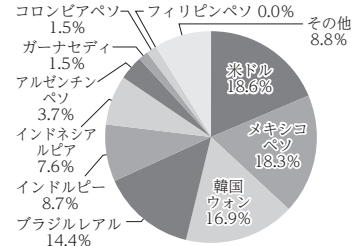
○資産別配分



○国別配分



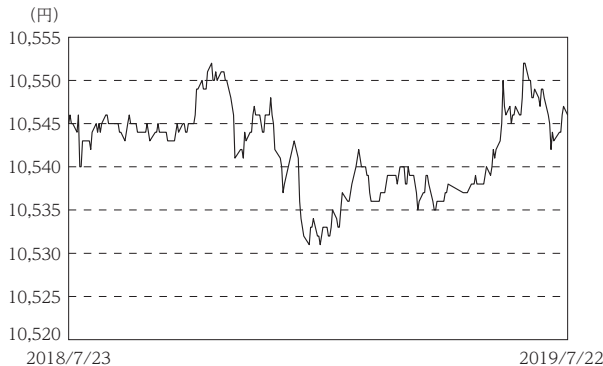
○通貨別配分



(注) 資産別・国別・通貨別配分のデータは2019年6月30日現在のものです。
(注) 比率は純資産総額に対する評価額の割合です。

日本短期債券ファンド（適格機関投資家限定）（2018年7月24日～2019年7月22日）

○基準価額の推移



○1万円当たりの費用明細

(2018年7月24日～2019年7月22日)

項 目	当 期		項 目 の 概 要
	金 額	比 率	
	円	%	
(a) 信 託 報 酬	15	0.140	(a) 信託報酬＝期中の平均基準価額×信託報酬率×(期中の日数÷年間日数)
(投 信 会 社)	(11)	(0.108)	ファンドの運用・調査、受託会社への運用指図、基準価額の算出、目論見書等の作成等の対価
(販 売 会 社)	(1)	(0.011)	交付運用報告書等各種書類の送付、顧客口座の管理、購入後の情報提供等の対価
(受 託 会 社)	(2)	(0.022)	ファンドの財産の保管および管理、委託会社からの運用指図の実行等の対価
(b) そ の 他 費 用	0	0.003	(b) その他費用＝期中のその他費用÷期中の平均受益権口数
(監 査 費 用)	(0)	(0.003)	ファンドの決算時等に監査法人から監査を受けるための費用
(そ の 他)	(0)	(0.000)	信託事務の処理等に要するその他諸費用
合 計	15	0.143	
期中の平均基準価額は、10,542円です。			

(注) 期中の費用（消費税等のかかるものは消費税等を含む）は、追加・解約により受益権口数に変動があるため、簡便法により算出した結果です。

(注) 各金額は項目ごとに円未満は四捨五入してあります。

(注) その他費用は、このファンドが組み入れている親投資信託が支払った金額のうち、当ファンドに対応するものを含みます。

(注) 各比率は1万円当たりのそれぞれの費用金額（円未満の端数を含む）を期中の平均基準価額で除して100を乗じたもので、項目ごとに小数第3位未満は四捨五入してあります。

以下のデータは、日本短期債券ファンド（適格機関投資家限定）の主要投資対象である日本短期債券マザーファンドの内容です。

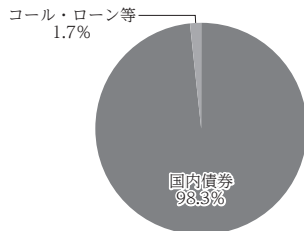
○組入上位 10 銘柄

(2019年7月22日現在)

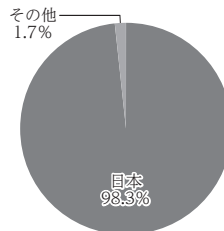
	銘柄	種類	国	業種 / 種別	比率 %
1	第28回三菱東京UFJ銀行(劣後特約付)	債券	日本	社債	5.5
2	第23回三井住友銀行(劣後特約付)	債券	日本	社債	5.5
3	第6回りそな銀行(劣後特約付)	債券	日本	社債	5.5
4	第44回野村ホールディングス	債券	日本	社債	5.5
5	第29回相鉄ホールディングス	債券	日本	社債	5.5
6	第27回大和証券グループ本社	債券	日本	社債	5.5
7	第527回関西電力	債券	日本	社債	5.5
8	第50回日本電気	債券	日本	社債	5.5
9	第11回ウエストパック・バンキング・コーポレーション	債券	日本	社債	5.4
10	第31回ソニー	債券	日本	社債	5.4
組入銘柄数			18銘柄		

・比率はマザーファンドの純資産総額に対する割合です。
 ・なお、全銘柄に関する詳細な情報等については、運用報告書（全体版）をご覧ください。

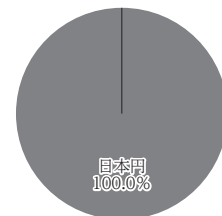
○資産別配分



○国別配分



○通貨別配分



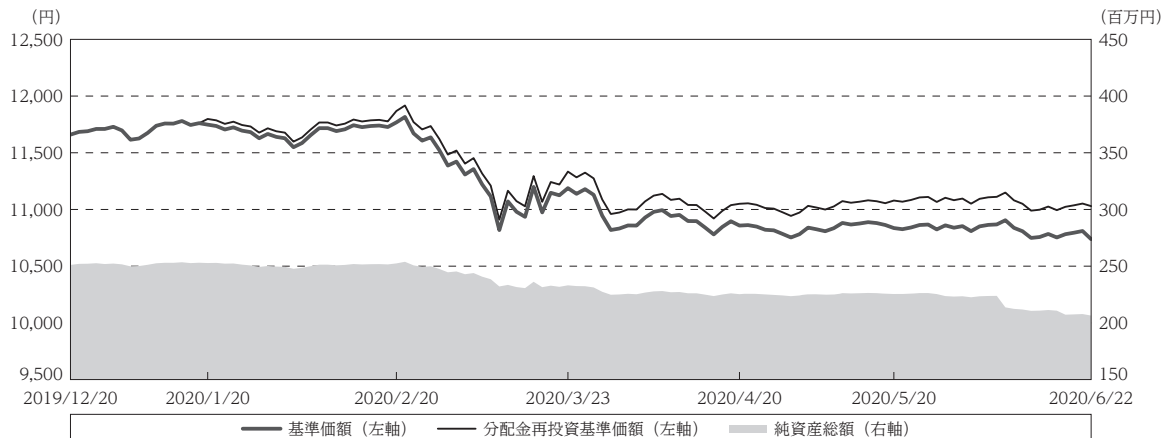
・比率はマザーファンドの純資産総額に対する割合です。構成比率が5%未満の項目は「その他」に分類しています。
 ・国別配分の「その他」には、コール・ローン等のように、複数の金融機関等（国内外）を相手先とし他のファンドの余裕資金等と合せて運用しているものを含まみます。

<テンプレトン世界債券ファンド 毎月分配型・為替ヘッジなしコース>

運用経過

作成期間中の基準価額等の推移

(2019年12月21日～2020年6月22日)



第108期首：11,660円

第113期末：10,738円 (既払分配金(税込み):300円)

騰落率：△ 5.4% (分配金再投資ベース)

- (注) 分配金再投資基準価額は、分配金(税込み)を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。
- (注) 分配金を再投資するかどうかについてはお客様がご利用のコースにより異なります。また、ファンドの購入価額により課税条件も異なります。したがって、お客様の損益の状況を示すものではありません。
- (注) 分配金再投資基準価額は、作成期首(2019年12月20日)の値が基準価額と同一となるように指数化しております。
- (注) 上記騰落率は、小数点以下第2位を四捨五入して表示しております。
- (注) 当ファンドが投資を行う投資対象ファンドは、特定のベンチマークを上回ることを目指して運用するものではありません。したがって、当ファンドもベンチマークを設定しておりません。

○基準価額の主な変動要因

主な投資対象ファンドである「フランクリン・テンプレトン・インベストメント・ファンズーテンプレトン・グローバル・ボンド・ファンド」(以下、テンプレトン・グローバル・ボンド・ファンドといいます。)の円建て外国投資証券「Class I (Mdis) JPY」(以下、J P Yクラスといいます。)の分配金再投資基準価額が値下がりしたこと、当ファンドの分配金再投資基準価額は下落しました。詳しくは後掲の「■投資環境」をご参照ください。

なお、投資対象ファンドの主な変動要因は以下の通りです。

- ・投資を行っている新興国を含む世界各国の国債、政府機関債等からのインカムゲイン
- ・投資を行っている新興国を含む世界各国の国債、政府機関債等の価格変動
- ・投資を行っている先進国通貨および新興国通貨の対米ドルの価格変動

1 万口当たりの費用明細

(2019年12月21日～2020年6月22日)

項 目	第108期～第113期		項 目 の 概 要
	金 額	比 率	
(a) 信 託 報 酬	61	0.542	(a) 信託報酬 = [作成期間の平均基準価額] × 信託報酬率
(投 信 会 社)	(12)	(0.111)	ファンドの運用、受託会社への指図、基準価額の算出、開示資料作成等の対価
(販 売 会 社)	(47)	(0.417)	購入後の情報提供、運用報告書等各種書類の送付、口座内でのファンドの管理および事務手続き等の対価
(受 託 会 社)	(2)	(0.014)	ファンドの運用財産の保管・管理、委託会社からの運用指図の実行等の対価
(b) そ の 他 費 用	0	0.004	(b) その他費用 = $\frac{[\text{作成期間のその他費用}]}{[\text{作成期間の平均受益権口数}]}$
(監 査 費 用)	(0)	(0.004)	その他費用
(そ の 他)	(0)	(0.000)	・ 監査費用は、監査法人等に支払うファンドの監査に係る費用 ・ その他は、金銭信託預入に係る手数料等
合 計	61	0.546	
作成期間の平均基準価額は、11,217円です。			

(注) 作成期間の費用（消費税等のかかるものは消費税等を含む）は追加、解約によって受益権口数に変動があるため、簡便法により算出した結果です。

(注) 各金額は各項目ごとに円未満は四捨五入してあります。

(注) 各項目の費用は、このファンドが組入れている投資信託証券が支払った費用を含みません。

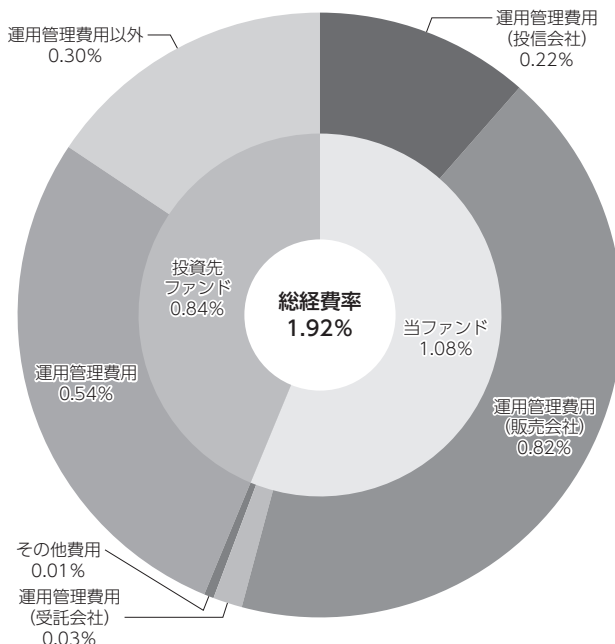
(注) 当該投資信託証券の直近の計算期末時点における「1万口当たりの費用明細」等が取得できるものについては「組入上位ファンドの概要」に表示しております。

(注) 各比率は1万口当たりのそれぞれの費用金額を作成期間の平均基準価額で除して100を乗じたもので、項目ごとに小数第3位未満は四捨五入してあります。

(参考情報)

○総経費率

作成期間の運用・管理にかかった費用の総額（原則として、募集手数料、売買委託手数料および有価証券取引税を除く。）を作成期間の平均受益権口数に作成期間の平均基準価額（1口当たり）を乗じた数で除した総経費率（年率）は1.92%です。



(単位:%)

総経費率(①+②+③)	1.92
①当ファンドの費用の比率	1.08
②投資先ファンドの運用管理費用の比率	0.54
③投資先ファンドの運用管理費用以外の比率	0.30

(注) 当ファンドの費用は1万口当たりの費用明細において用いた簡便法により算出したものです。

(注) 各費用は、原則として、募集手数料、売買委託手数料および有価証券取引税を含みません。

(注) 各比率は、年率換算した値です。

(注) 投資先ファンドとは、当ファンドが組入れている投資信託証券（マザーファンドを除く。）です。

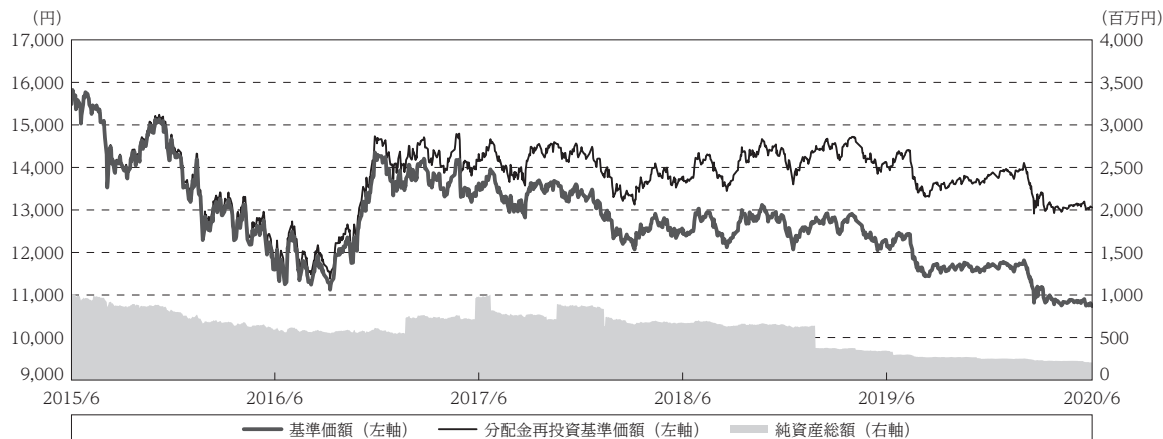
(注) 当ファンドの費用は、マザーファンドが支払った費用を含み、投資先ファンドが支払った費用を含みません。

(注) 当ファンドの費用と投資先ファンドの費用は、計上された期間が異なる場合があります。

(注) 上記の前提条件で算出したものです。このため、これらの値はあくまでも参考であり、実際に発生した費用の比率とは異なります。

最近5年間の基準価額等の推移

(2015年6月22日～2020年6月22日)



- (注) 分配金再投資基準価額は、分配金(税込み)を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。
- (注) 分配金を再投資するかどうかについてはお客様がご利用のコースにより異なります。また、ファンドの購入価額により課税条件も異なります。したがって、お客様の損益の状況を示すものではありません。
- (注) 分配金再投資基準価額は、2015年6月22日の値が基準価額と同一となるように指数化しております。

	2015年6月22日 決算日	2016年6月20日 決算日	2017年6月20日 決算日	2018年6月20日 決算日	2019年6月20日 決算日	2020年6月22日 決算日
基準価額 (円)	15,488	11,596	13,625	12,449	12,225	10,738
期間分配金合計(税込み) (円)	—	240	420	600	600	600
分配金再投資基準価額騰落率 (%)	—	△ 23.8	21.3	△ 4.3	3.0	△ 7.4
純資産総額 (百万円)	988	592	984	670	344	206

- (注) 上記騰落率は、小数点以下第2位を四捨五入して表示しております。
- (注) 純資産総額の単位未満は切捨てて表示しております。
- (注) 騰落率は1年前の決算応当日との比較です。
- (注) 当ファンドは、「フランクリン・テンプレトン・インベストメント・ファンズーテンプレトン・グローバル・ボンド・ファンド Class I (Mdis) JPY」および「日本短期債券ファンド(適格機関投資家限定)」に投資するファンド・オブ・ファンズです。
ファンドの収益率を測る適切なインデックスが存在しないため、ベンチマークおよび参考指数はありません。

投資環境

(2019年12月21日～2020年6月22日)

(債券市場)

当作成期、新型コロナウイルスの世界的な感染拡大に伴う世界経済の悪化懸念を受け、米国10年国債利回りは低下(債券価格は上昇)しました。また、欧州や新興国の長期債の利回りも全般に低下しました。

米国の債券市場では、当作成期首から2020年1月中旬にかけては、米中貿易交渉の進展を巡る観測などを背景にレンジ内での動きとなっていました。その後、新型コロナウイルスの感染が世界へと広がるにつれ、世界経済の成長減速が懸念され、投資家がリスク回避姿勢を強めたことなどを背景に安全資産とみられる債券への資金移動が急速に進みました。米国10年国債利回りは3月初に史上初となる1%割れとなった一方、3月3日に米連邦準備理事会(FRB)はリーマンショック時以来となる臨時の米連邦公開市場委員会(FOMC)を開催し、政策金利であるフェデラルファンド(FF)金利の誘導目標レンジを0.5%引き下げました。さらに同月中旬にも緊急のFOMCを開催し、1.0%の大幅な利下げを行い実質ゼロ金利としたことに加え、量的緩和政策の再開も決定しました。FRBはその後も様々かつ大規模な金融政策を打ち出す一方、米国政府も新型コロナウイルスの感染拡大に対応する財政政策を打ち出しました。米国10年国債利回りは当作成期首の1.9%台から大きく低下し0.6%台で当作成期末を迎えました。

欧州の債券市場でも、新型コロナウイルスの感染拡大を背景に景気悪化懸念が強まる中、各国の債券利回りは低下しました。ドイツ10年国債利回りは当作成期首の-0.2%台から低下し-0.4%台で当作成期末を迎えました。

新興国の債券市場は、新型コロナウイルスの世界的な感染拡大を背景に投資家のリスク回避姿勢が強まり、一時は売られて大きく利回りが上昇しましたが、その後、主要先進国に合わせて各国が金融緩和姿勢を強めたことなどを背景に利回りは全般に低下しました。

(外国為替市場)

当作成期、米ドルの対円相場は当作成期首の1米ドル109円台半ばから当作成期末には106円台後半へとドル安円高となりました。

2020年1月初、米軍によるイラン高官の殺害に伴う軍事的緊張の高まりなどを受けて、一時1米ドル107円台までドル安円高が進みました。2月に入ると、発表された1月の米供給管理協会(ISM)製造業指数が改善を示したことや中国当局による大規模な流動性供給への期待などを背景に一時1米ドル112円台までドル高円安が進む局面もありましたが、その後、新型コロナウイルスの世界的な感染が広がる中、投資家のリスク回避姿勢が強まり、世界的な株安とともに原油価格も急落、そのような環境下で円が買われ、3月上旬には一時1米ドル101円台までドル安円高が進みました。その後、金融市場全般が大きく変動する中で米ドルの需給がひっ迫し、一時1米ドル111円台まで米ドルが急反発したものの、FRBによる金融支援策や米国政府による財政政策などを受け再び米ドルが弱含む展開となり、結局、米ドルの対円相場は当作成期首を下回る水準で当作成期末を終えました。

ユーロは、米ドルに対してはやや堅調となりましたが、円に対してはやや軟調となりました。また、新興国通貨は全般に軟調となりました。

当ファンドのポートフォリオ

(2019年12月21日～2020年6月22日)

(テンプレトン世界債券ファンド 毎月分配型・為替ヘッジなしコース)

「テンプレトン世界債券ファンド 毎月分配型・為替ヘッジなしコース」は、当ファンドの運用の基本方針にもとづき、「テンプレトン・グローバル・ボンド・ファンド J P Yクラス」を高位に組み入れました。また、「日本短期債券ファンド (適格機関投資家限定)」受益証券への投資も行いました。

当作成期末の組入比率は、「テンプレトン・グローバル・ボンド・ファンド J P Yクラス」が98.5%、「日本短期債券ファンド (適格機関投資家限定)」が0.4%となりました。

(投資対象ファンド：テンプレトン・グローバル・ボンド・ファンド J P Yクラス)

<国・地域配分>

主な国・地域別配分については、日本25.0%、韓国12.6%、メキシコ9.8%、ノルウェー8.8%、インドネシア8.1%となりました。

<通貨別配分>

主な通貨別配分については、米ドル57.7%、円54.2%、ノルウェークローネ8.8%となる一方で、ユーロ34.3%、豪ドル15.7%となりました。

<信用格付別配分>

主な配分については、投資適格75.2%、非投資適格11.5%、その他13.3%となりました。

(2020年5月末時点)

(投資対象ファンド：日本短期債券ファンド (適格機関投資家限定))

主として日本短期債券マザーファンドを通じて、わが国の公社債・金融商品に投資し信託財産の安定的な成長を目指して安定運用を行いました。

当ファンドのベンチマークとの差異

(2019年12月21日～2020年6月22日)

当ファンドはベンチマークや参考指数を設けていないため、本項目は記載しておりません。

分配金

(2019年12月21日～2020年6月22日)

当作成期の収益分配は次表の通りです。第108期から第112期については、配当等収益を中心に分配を行いました。第113期につきましては、配当等収益に加え、基準価額の水準、市況動向等を勘案して決定いたしました。

なお、留保された収益の運用につきましては、特に制限を設けず元本部分と同一の運用を行います。

○分配原資の内訳

(単位:円、1万口当たり、税込み)

項 目	第108期	第109期	第110期	第111期	第112期	第113期
	2019年12月21日～ 2020年1月20日	2020年1月21日～ 2020年2月20日	2020年2月21日～ 2020年3月23日	2020年3月24日～ 2020年4月20日	2020年4月21日～ 2020年5月20日	2020年5月21日～ 2020年6月22日
当期分配金	50	50	50	50	50	50
(対基準価額比率)	0.424%	0.423%	0.445%	0.458%	0.459%	0.463%
当期の収益	45	43	35	28	19	16
当期の収益以外	4	6	14	21	30	33
翌期繰越分配対象額	6,852	6,845	6,831	6,809	6,778	6,745

(注) 対基準価額比率は当期分配金(税込み)の期末基準価額(分配金込み)に対する比率であり、ファンドの収益率とは異なります。

(注) 当期の収益、当期の収益以外は小数点以下切捨てで算出しているため合計が当期分配金と一致しない場合があります。

今後の運用方針

(テンプレートン世界債券ファンド 毎月分配型・為替ヘッジなしコース)

「テンプレートン世界債券ファンド 毎月分配型・為替ヘッジなしコース」は、当ファンドの運用の基本方針にもとづき、「テンプレートン・グローバル・ボンド・ファンド JPYクラス」および「日本短期債券ファンド(適格機関投資家限定)」へ投資を行います。「テンプレートン・グローバル・ボンド・ファンド JPYクラス」への投資比率は高位を維持する方針です。

(投資対象ファンド: テンプレートン・グローバル・ボンド・ファンド JPYクラス)

○市場見通し(2020年5月末時点)

世界は依然として新型コロナウイルスによる経済的な影響の初期段階にあることから、ポートフォリオでリスクを積み増すには時期尚早であると考えます。運用チームでは、直近のリスク資産の上昇は、市場では感染流行第二波や金融市場の二番底に対するリスクが過小評価されている表れであると考えます。現在は、安全な投資先と考える特定の資産に注目している一方、利回りの高い新興国において相対的に堅調な国内経済を有している国への選別的な投資を行っています。低金利やマイナス金利となっている先進国債券利回りは、今後も歴史的な低水準で推移することが見込まれ、債券価格の上昇余地は限定的であると考えており、リターンの源泉は別の手段で獲得する方針です。

ポートフォリオでは、脆弱な資産クラスの価格との相関を低める一方、相対的に高いインカムの獲得と元本の確保を目指しています。また、キャッシュおよび流動性の高い米国短期国債のポジションを積み上げることで、今後投資機会が訪れた際に迅速に対応できるようにしています。

資産クラスによっては、2008年の世界金融危機以降のようなV字回復を期待した動きとなっている市場があります。しかし、運用チームではより緩やかな回復を想定しており、持続的な回復局面に至るま

でに多くの上昇や調整が繰り返されるものと考えます。新型コロナウイルスのパンデミックはいつまで継続するのか、また経済活動再開後に感染の再拡大が生じるのか、などについて予想することは依然として困難です。

新型コロナウイルスのパンデミック前の世界が既に不安定な状況であったということが、現在の危機的状況をさらに複雑なものとしています。具体的には、地政学的リスクの高まり、貿易摩擦、政治の二極化、先進国における際限のない財政赤字、主要国における低金利環境の継続、そしてクレジットセクターの過剰債務などといった要素が経済あるいは金融ショックに対して脆弱な環境を創り出したと言えます。運用チームでは過去数四半期にわたりこれらのリスクに懸念を抱いてきており、ポートフォリオでは昨年より安全資産を積み増す一方、様々な新興国市場におけるリスクエクスポージャーの調整を行ってきました。新型コロナウイルス感染拡大や原油価格の急落などを予想していたわけではありませんが、不安定な市場環境がこのような予見できない事象によって脆さを露呈することを懸念していました。

○運用方針

全体として、ポートフォリオのデュレーションを短めに維持します。イールドカーブのスティープ化を受け、米国債に対するマイナスデュレーションのポジションを解消し、現在は流動性および利回りの観点から米国債の短期ゾーンを選好しています。また、強固なファンダメンタルズを有し魅力的なリスク調整後の利回りを有する国の通貨を選別的に保有しています。一方、それらのリスクに対し、円やスイスフランといった安全資産と考える通貨を持つことでポートフォリオ全体のリスクバランスを調整しています。また、新興国通貨全般のリスクに対するヘッジとして豪ドルを売り建てていることに加え、韓国ウォン、メキシコペソ、ブラジルレアルについては各々為替ヘッジを行っています。また、大幅に割高となっているうえ、債務不履行や破綻に対し脆弱であると考えられるクレジット市場への投資は回避しています。全体として、割高で今も継続する経済への影響に対して脆弱な資産クラスを回避し、ポートフォリオを分散させてリスクの低減を図っていく方針です。

(投資対象ファンド：日本短期債券ファンド（適格機関投資家限定）)

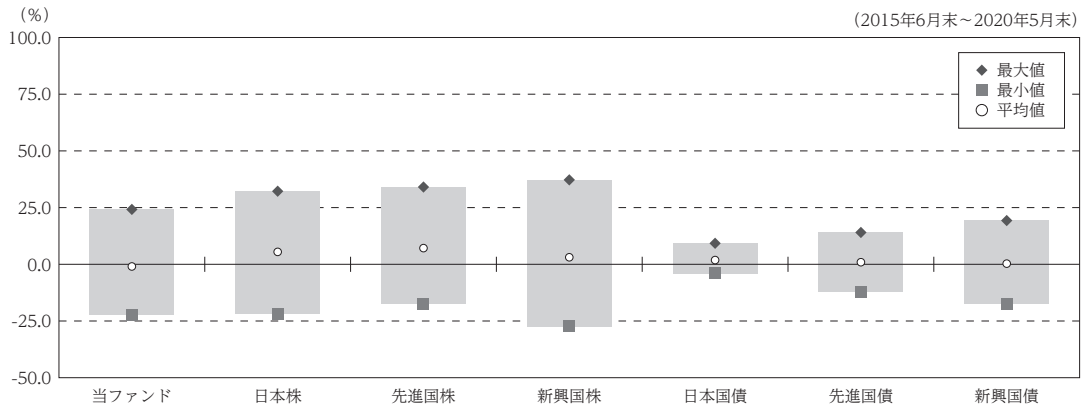
今後も引き続き、主として日本短期債券マザーファンドを通じて、わが国の公社債・金融商品に投資し、信託財産の安定的な成長をめざして安定運用を行う方針です。

引き続きご愛顧賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

当ファンドの概要

商品分類	追加型投信／内外／債券	
信託期間	無期限	
運用方針	投資信託財産の着実な成長と安定した収益の確保をめざして運用を行います。	
主要投資対象	当ファンド	①フランクリン・テンプレトン・インベストメント・ファンズーテンプレトン・グローバル・ボンド・ファンドの円建て外国投資証券Class I (Mdis) JPY ②日本短期債券ファンド（適格機関投資家限定）の受益証券
	フランクリン・テンプレトン・インベストメント・ファンズーテンプレトン・グローバル・ボンド・ファンド Class I (Mdis) JPY	世界各国（新興国を含む）の国債および政府機関債等
	日本短期債券ファンド（適格機関投資家限定）	日本短期債券マザーファンドの受益証券を通じてわが国の公社債、金融商品に投資
運用方法	主として、外国投資証券である「フランクリン・テンプレトン・インベストメント・ファンズーテンプレトン・グローバル・ボンド・ファンド（Class I (Mdis) JPY）」への投資を通じて、世界各国（新興国を含む）の国債および政府機関債等に実質的な投資を行います。また、証券投資信託である「日本短期債券ファンド（適格機関投資家限定）」の受益証券への投資も行います。 外国投資証券への投資は高位（概ね信託財産の純資産総額の90%以上）を維持することを基本とします。	
分配方針	毎決算時（毎月20日（休業日の場合は翌営業日））に、原則として以下の方針に基づき分配を行います。 ①分配対象額の範囲は、経費控除後の繰越分を含めた配当等収益と売買益（評価益を含みます。）等の全額とします。 ②収益分配金額は、委託者が毎計算期末の基準価額水準、市況動向等を勘案して決定します。なお、6月および12月以外の月の決算時の分配については、原則として配当等収益を中心とするものとします。また、分配対象収益が少額の場合には分配を行わないことがあります。 ③留保益の運用については、特に制限を設けず、委託者の判断に基づき、元本部分と同一の運用を行います。	

○代表的な資産クラスとの騰落率の比較



(単位: %)

	当ファンド	日本株	先進国株	新興国株	日本国債	先進国債	新興国債
平均値	-1.0	5.5	7.1	3.1	1.9	0.9	0.3
最大値	24.2	32.2	34.1	37.2	9.3	14.0	19.3
最小値	-22.3	-22.0	-17.5	-27.4	-4.0	-12.3	-17.4

2015年6月～2020年5月の5年間の各月末における直近1年間の騰落率の平均・最大・最小を、当ファンドおよび他の代表的な資産クラスについて表示したものです。

(注) すべての資産クラスが当ファンドの投資対象とは限りません。

(注) 決算日に対応した数値とは異なります。

(注) 当ファンドは分配金再投資基準価額の騰落率です。

《各資産クラスの指数》

日本株：東証株価指数 (TOPIX) (配当込み)

先進国株：MSCI コクサイ・インデックス (配当込み、円ベース)

新興国株：MSCI エマージング・マーケット・インデックス (配当込み、円ベース)

日本国債：NOMURA-BPI 国債

先進国債：FTSE 世界国債インデックス (除く日本、円ベース)

新興国債：JPモルガン・ガバメント・ボンド・インデックス-エマージング・マーケット・グローバル・ディバースファイド (円ベース)

(注) 海外の指数は、為替ヘッジなしによる投資を想定して、円ベースの指数を採用しています。

なお、JPモルガン・ガバメント・ボンド・インデックス-エマージング・マーケット・グローバル・ディバースファイド (円ベース) は、委託会社で円換算しています。

代表的な資産クラスの指数の著作権等についてはこの運用報告書の最後に記載してありますので、ご参照ください。

当ファンドのデータ

<テンプレートン世界債券ファンド 毎月分配型・為替ヘッジなしコース>

組入資産の内容

(2020年6月22日現在)

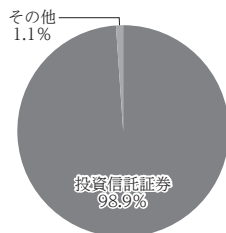
○組入上位ファンド

銘	柄	名	第113期末
			%
フランクリン・テンプレートン・インベストメント・ファンズーテンプレートン・グローバル・ボンド・ファンド Class I (Mdis) JPY			98.5
日本短期債券ファンド(適格機関投資家限定)			0.4
組入銘柄数			2銘柄

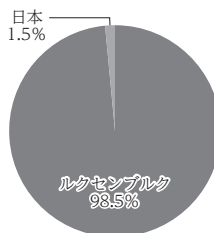
(注) 組入比率は純資産総額に対する評価額の割合です。

(注) 組入銘柄に関する詳細な情報等につきましては、運用報告書(全体版)に記載しております。

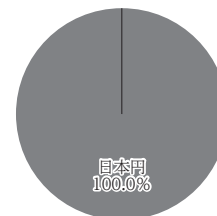
○資産別配分



○国別配分



○通貨別配分



(注) 比率は当ファンドの純資産総額に対する割合です。

(注) 国別配分につきましては発行国もしくは投資国を表示しております。

(注) その他にはコール・ローン等を含む場合があります。

純資産等

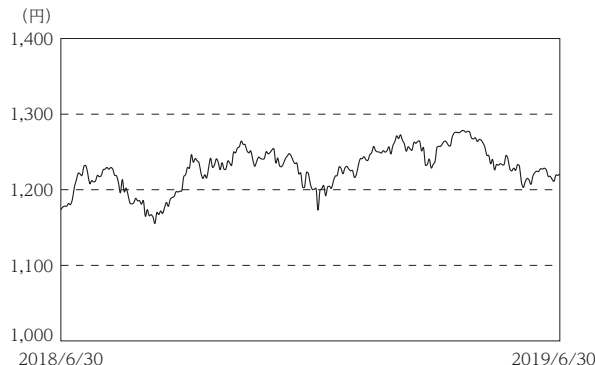
項目	第108期末	第109期末	第110期末	第111期末	第112期末	第113期末
	2020年1月20日	2020年2月20日	2020年3月23日	2020年4月20日	2020年5月20日	2020年6月22日
純資産総額	252,750,022円	252,434,841円	233,099,060円	225,293,709円	225,319,042円	206,429,118円
受益権総口数	215,147,526口	214,508,761口	208,341,884口	207,494,318口	207,929,980口	192,237,617口
1万口当たり基準価額	11,748円	11,768円	11,188円	10,858円	10,836円	10,738円

(注) 当作成期間(第108期～第113期)中における追加設定元本額は3,038,750円、同解約元本額は26,159,886円です。

組入上位ファンドの概要

フランクリン・テンプレトン・インベストメント・ファンズ・テンプレトン・グローバル・ボンド・ファンド
(2018年7月1日～2019年6月30日)

○基準価額の推移



(注) 当ファンドが投資対象とする Class I (Mdis) JPY の分配金再投資基準価額です。

○費用の明細

(2018年7月1日～2019年6月30日)

項 目	比 率
運用報酬	0.55%
管理会社報酬、保管銀行報酬、監査費用等	0.30%
合計	0.85%

(注) 当ファンドが投資対象とする Class I (Mdis) JPY の数値です。
(注) 1 万円当たりの費用明細に代えて、当期間における各費用の平均純資産総額に対する比率を記載したものです。

○上位 10 銘柄

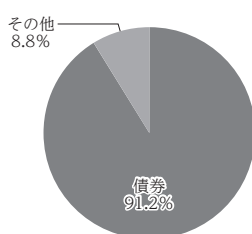
(2019年6月30日現在)

銘 柄 名	通 貨	比 率
Korea Treasury Bond, senior note, 2.00%, 03/10/21	韓国ウォン	4.55%
Notas do Tesouro Nacional, 10.00%, 01/01/27	ブラジルレアル	4.35%
Government of Mexico, senior note, M, 5.00%, 12/11/19	メキシコペソ	4.25%
FHLB, 0.00%, 07/12/19	米ドル	3.18%
Notas do Tesouro Nacional, 10.00%, 01/01/23	ブラジルレアル	3.11%
FHLB, 0.00%, 07/03/19	米ドル	2.52%
Government of Mexico, senior note, M, 7.25%, 12/09/21	メキシコペソ	2.43%
Korea Treasury Bond, senior note, 1.375%, 09/10/21	韓国ウォン	2.30%
U.S. Treasury Bill, 0.00%, 08/29/19	米ドル	2.20%
Government of Mexico, senior bond, M, 6.50%, 06/09/22	メキシコペソ	2.19%
組入銘柄数	114銘柄	

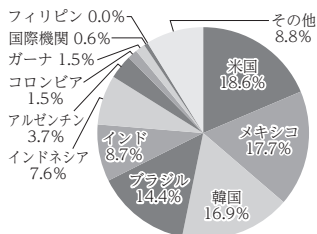
(注) 比率は純資産総額に対する評価額の割合です。

(注) 全銘柄に関する詳細な情報等につきましては、運用報告書(全体版)に記載しております。

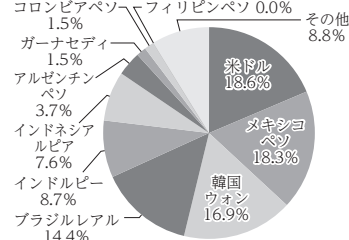
○資産別配分



○国別配分



○通貨別配分

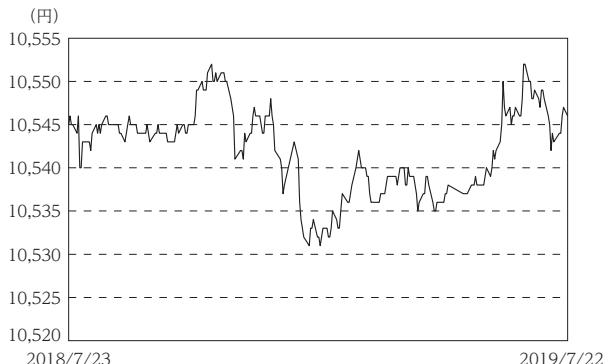


(注) 資産別・国別・通貨別配分のデータは2019年6月30日現在のものです。

(注) 比率は純資産総額に対する評価額の割合です。

日本短期債券ファンド（適格機関投資家限定）（2018年7月24日～2019年7月22日）

○基準価額の推移



○1万円当たりの費用明細

(2018年7月24日～2019年7月22日)

項 目	当 期		項 目 の 概 要
	金 額	比 率	
	円	%	
(a) 信 託 報 酬	15	0.140	(a) 信託報酬＝期中の平均基準価額×信託報酬率×(期中の日数÷年間日数)
(投 信 会 社)	(11)	(0.108)	ファンドの運用・調査、受託会社への運用指図、基準価額の算出、目論見書等の作成等の対価
(販 売 会 社)	(1)	(0.011)	交付運用報告書等各种書類の送付、顧客口座の管理、購入後の情報提供等の対価
(受 託 会 社)	(2)	(0.022)	ファンドの財産の保管および管理、委託会社からの運用指図の実行等の対価
(b) そ の 他 費 用	0	0.003	(b) その他費用＝期中のその他費用÷期中の平均受益権口数
(監 査 費 用)	(0)	(0.003)	ファンドの決算時等に監査法人から監査を受けるための費用
(そ の 他)	(0)	(0.000)	信託事務の処理等に要するその他諸費用
合 計	15	0.143	
期中の平均基準価額は、10,542円です。			

(注) 期中の費用（消費税等のかかるものは消費税等を含む）は、追加・解約により受益権口数に変動があるため、簡便法により算出した結果です。

(注) 各金額は項目ごとに円未満は四捨五入してあります。

(注) その他費用は、このファンドが組み入れている親投資信託が支払った金額のうち、当ファンドに対応するものを含みます。

(注) 各比率は1万円当たりのそれぞれの費用金額（円未満の端数を含む）を期中の平均基準価額で除して100を乗じたもので、項目ごとに小数第3位未満は四捨五入してあります。

以下のデータは、日本短期債券ファンド（適格機関投資家限定）の主要投資対象である日本短期債券マザーファンドの内容です。

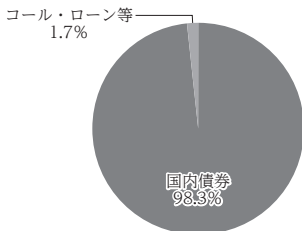
○組入上位 10 銘柄

(2019年7月22日現在)

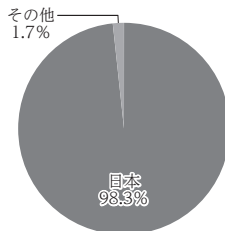
	銘柄	種類	国	業種／種別	比率 %
1	第28回三菱東京UFJ銀行(劣後特約付)	債券	日本	社債	5.5
2	第23回三井住友銀行(劣後特約付)	債券	日本	社債	5.5
3	第6回りそな銀行(劣後特約付)	債券	日本	社債	5.5
4	第44回野村ホールディングス	債券	日本	社債	5.5
5	第29回相鉄ホールディングス	債券	日本	社債	5.5
6	第27回大和証券グループ本社	債券	日本	社債	5.5
7	第527回関西電力	債券	日本	社債	5.5
8	第50回日本電気	債券	日本	社債	5.5
9	第11回ウエストパック・バンキング・コーポレーション	債券	日本	社債	5.4
10	第31回ソニー	債券	日本	社債	5.4
組入銘柄数			18銘柄		

- ・比率はマザーファンドの純資産総額に対する割合です。
- ・なお、全銘柄に関する詳細な情報等については、運用報告書（全体版）をご覧ください。

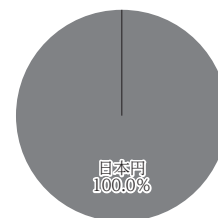
○資産別配分



○国別配分



○通貨別配分



- ・比率はマザーファンドの純資産総額に対する割合です。構成比率が5%未満の項目は「その他」に分類しています。
- ・国別配分の「その他」には、コール・ローン等のように、複数の金融機関等（国内外）を相手先とし他のファンドの余裕資金等と合せて運用しているものを含みます。

<代表的な資産クラスの指数の著作権等について>

○東証株価指数（TOPIX）（配当込み）

東証株価指数（TOPIX）は、株式会社東京証券取引所（株東京証券取引所）の知的財産であり、指数の算出、指数値の公表、利用など同指数に関するすべての権利・ノウハウ及び東証株価指数（TOPIX）の商標又は標章に関するすべての権利は株東京証券取引所が有しています。なお、本商品は、株東京証券取引所により提供、保証又は販売されるものではなく、株東京証券取引所は、本商品の発行又は売買に起因するいかなる損害に対しても、責任を有しません。

○MSCIコクサイ・インデックス（配当込み、円ベース）、MSCIエマージング・マーケット・インデックス（配当込み、円ベース）

MSCIコクサイ・インデックスおよびMSCIエマージング・マーケット・インデックスは、MSCIが開発した指数です。同指数に対する著作権、知的所有権その他一切の権利はMSCIに帰属します。またMSCIは、同指数の内容を変更する権利および公表を停止する権利を有しています。

○NOMURA-BPI 国債

NOMURA-BPI 国債は、野村證券株式会社が公表している指数で、その知的財産権は野村證券株式会社に帰属します。なお、野村證券株式会社は、NOMURA-BPI 国債を用いて行われるフランクリン・テンプルトン・インベストメンツ株式会社の事業活動・サービスに関し一切責任を負いません。

○FTSE世界国債インデックス（除く日本、円ベース）

FTSE世界国債インデックスは、FTSE Fixed Income LLCにより運営されている債券インデックスです。同指数はFTSE Fixed Income LLCの知的財産であり、指数に関するすべての権利はFTSE Fixed Income LLCが有しています。

○JPモルガン・ガバメント・ボンド・インデックス-エマージング・マーケット・グローバル・ディバーシファイド（円ベース）

J.P. Morgan Securities LLCが公表しているインデックスであり、その著作権および知的財産権は同社に帰属しています。



FRANKLIN TEMPLETON

フランクリン・テンプレトンは、創業以来
ベンジャミン・フランクリンの肖像画をロゴマークとしております。
創業者ルーパート・H・ジョンソン Sr. は、
“With money and financial planning, prudence comes first.”
(お金を増やそうとするときに一番大切なのは、用心深さである。)
というベンジャミン・フランクリンのビジネス哲学に深く感銘し、
アメリカ建国の父でもあり、偉大な科学者、
そして優れた投資家でもあった彼の名を社名に冠しました。
ベンジャミン・フランクリンの肖像画を用いたロゴマークは、
ご投資家の皆様にとって、
フランクリン・テンプレトンの資産運用サービスに対する
信頼と安心の象徴となっております。